

三重大学統合報告書2023

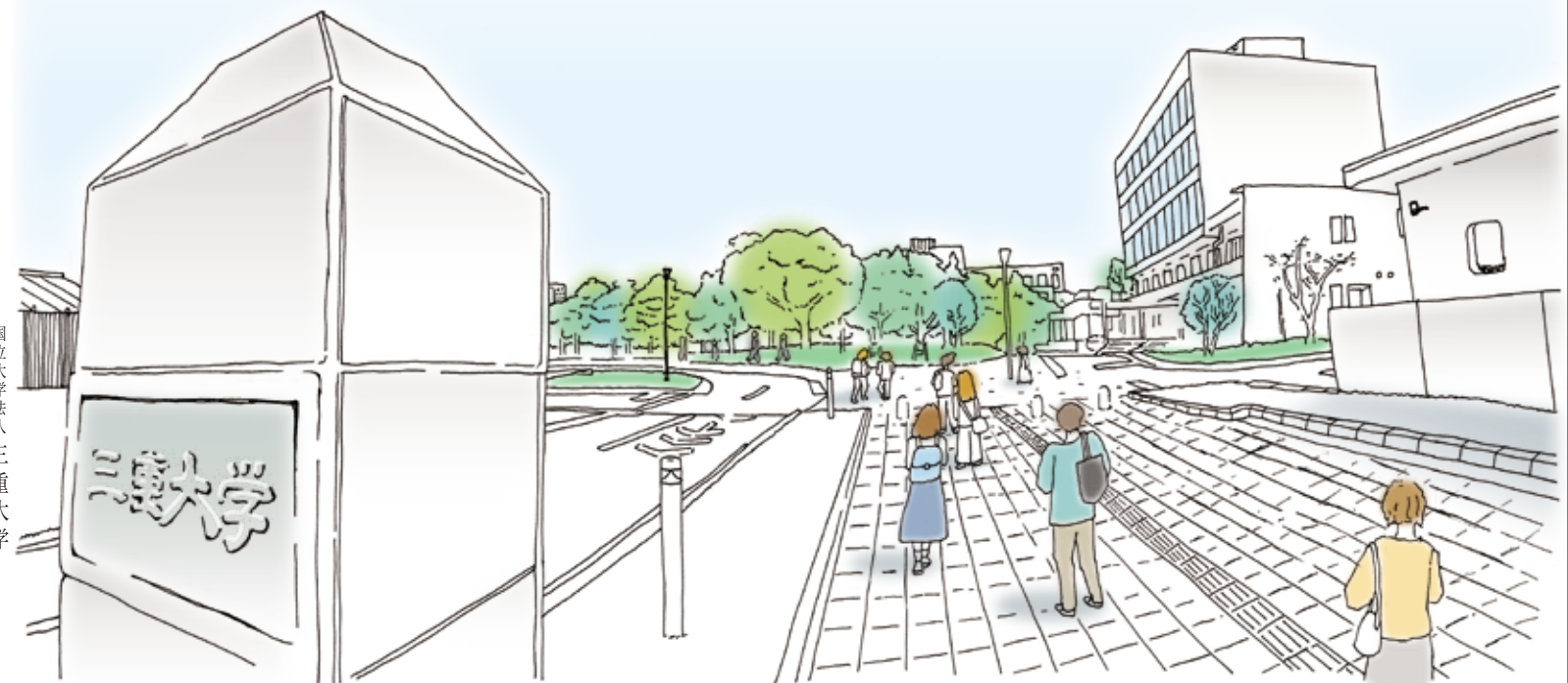
三重大学 統合報告書 2023



〒514-8507 津市栗真町屋町1577
TEL.059-232-1211(代)

2023年11月 編集発行/三重大学企画総務部総務チーム広報室

国立大学法人三重大学



三重から世界へ 世界から三重へ 未来を拓く地域共創大学

地域に根ざし、世界に誇れる教育・研究に取り組み、人と自然の調和・共生の中で、社会との共創に向けて切磋琢磨する。



Contents

- | | | | |
|------------------------------|--|---|--|
| 03 三重大学の目指す姿
三重大学ビジョン2030 | 07 特集記事
三重大学の防災について
三重大学のリカレント教育 | 11 活動実績
教育
研究・社会貢献
国際交流
地域医療・先進医療 | 21 ガバナンス
組織
環境
30 財務情報
40 おわりに |
|------------------------------|--|---|--|

学長挨拶



我が国は、少子高齢化と人口減少、所得・経済問題や医療・介護と社会保障、安全保障など様々な問題や課題に直面しています。また、デジタルトランスフォーメーションの推進、脱炭素化といった環境保護に対する取組は世界規模の大きな流れでもあり、SDGsの理念の下、持続可能な発展の取組も求められています。

三重大学は、地域に根ざし、世界に誇れる教育・研究に取り組み、人と自然の調和・共生の中で、社会との共創に向けて切磋琢磨することを基本として活動を続けています。この理念の下、大学が有する「知」、「スキル」、「多様な繋がり」および「地域との価値共有」を深め、地域社会との共創の場をけん引していくことは、大学の重要な使命であり、そのためにも、地域にとって魅力や特色のある大学へと発展していかなくてはなりません。

様々な地域の問題や課題を乗り越え、豊かで幸せな新しい地域社会を拓いていくには、人々とあらゆる組織がより良い社会の構築に向けて共創することが求められています。そこで、2030年までを見据え、本学の活動目標として「三重大学ビジョン2030」をまとめました。教育・研究・社会貢献・医療の各領域において、これらの目標とその行動計画に教職員が一丸となって取り組んでいきます。

世界と繋がる地域共創活動に真摯に取り組み、未来を拓く教育研究拠点として発展し続けることを三重大学は目指します。

学長 伊藤 正明

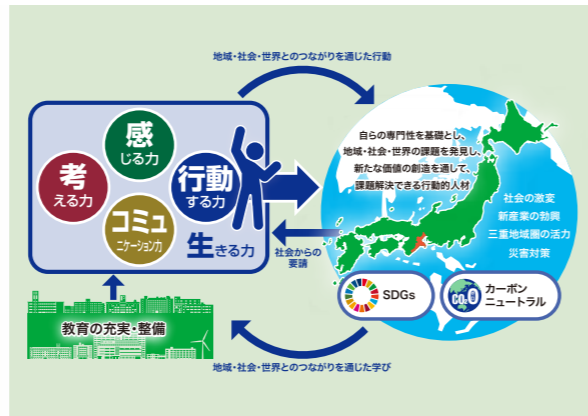
三重大学の目指す姿

三重大学ビジョン2030

1 教育

地域・社会・世界とのつながりを通して、行動する力を引き出す教育

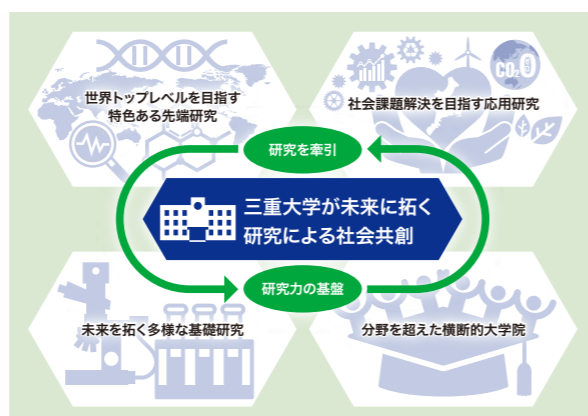
- 行動する力で地域をけん引する人材の育成
- 新たな価値の創出マインドを持つ人材の育成
- 地域の社会人に学びの機会を提供するリカレント教育の拡充



2 研究

社会共創を支える多様で独創的な研究

- 世界トップレベルを目指す特色ある先端研究
- 社会課題解決を目指す応用研究
- 未来を拓く多様な基礎研究
- 分野を超えた横断的大学院



3 社会貢献

三重モデル地域創生

- 先端技術の社会実装とそれを活用した新たな社会価値の創出
- 地域課題解決・地域文化発展
- 安心・安全・快適な社会の形成



4 医療

先端医療の実施と医療人育成による地域医療の発展

- すべての県民への質の高い医療の提供
- 医療人の育成
- 最先端医療の研究推進



理事(教育担当)・副学長

鶴原 清志



三重大学生の素直で協調性が高く、堅実で温和であるという良い側面をさらに伸ばしつつ、創造性、主体性、積極性も重視し、地域・社会・世界とのつながりを通して、「行動する力」を引き出すことも教育のビジョンとして設定しました。そのために、「行動する力で地域をけん引する人材の育成」「新たな価値の創出マインドを持つ人材の育成」「地域の社会人に学びの機会を提供するリカレント教育の拡充」を柱として、教育の充実を進めていきたいと思っております。

理事(社会連携担当)・副学長

酒井 俊典



三重大学は「地域共創大学」として、地域をフィールドに地域社会と協働し、地域とともに発展できることを目指した取組を進めています。その中で、社会的なインパクトを創出し、地域創生のモデルとなる取組を展開するため、「地域共創展開センター」を立ち上げました。地域共創展開センターでは、産業の未来図、日本の地域モデルの未来図、持続可能社会モデルの未来図の3部門で、地域産業等の振興に寄与する取組を産官学が一体となって展開しています。

理事(研究、情報担当)・副学長

吉岡 基



大学での研究は、基礎研究と応用研究の大きく2つに分けることができます。これらの研究成果には、社会に役立つものであることがより強く求められるようになってきました。社会的インパクトと呼ばれるものがそれです。2030年に向け、三重大学の研究は、地域から世界トップを目指す先端的研究と地域の特性を活かした特色ある研究を展開しつつ、地域の課題解決に寄与する研究、そして未来につながる、しかしまだその形がわからない異分野融合による横断的な研究の展開も目指していきます。

理事(財務、事務局担当)・副学長・事務局長

木下 孝洋



三重大学では、国から配分される運営費交付金や授業料等の自己収入による基盤的財源に加え、共同研究や奨学寄附金等社会の様々なステークホルダーからいただいた資金により、教育、研究、社会貢献活動を広く展開することができています。本誌では、本学の財務諸表をもとに、財政状態、運営状況のポイントについてご説明いたします。今後も財務基盤の強化・充実を図るとともに持続可能な事務組織を目指します。

理事(地域共創担当)・副学長

西岡 慶子



課題先進国である日本では、地域が深刻な社会課題に直面しています。三重大学は、地域共創大学として、課題解決に向けて積極的に地域連携を進めてきました。令和4年度は「みえの未来共創会議」のキックオフによる幅広いステークホルダーとの対話と課題の共有、地域資源を活用して研究を行う若手・中堅教員への学内助成などを通じて、地域との共通価値の創造に取り組みました。今後も地域との連携を深め、活動を充実させてまいります。

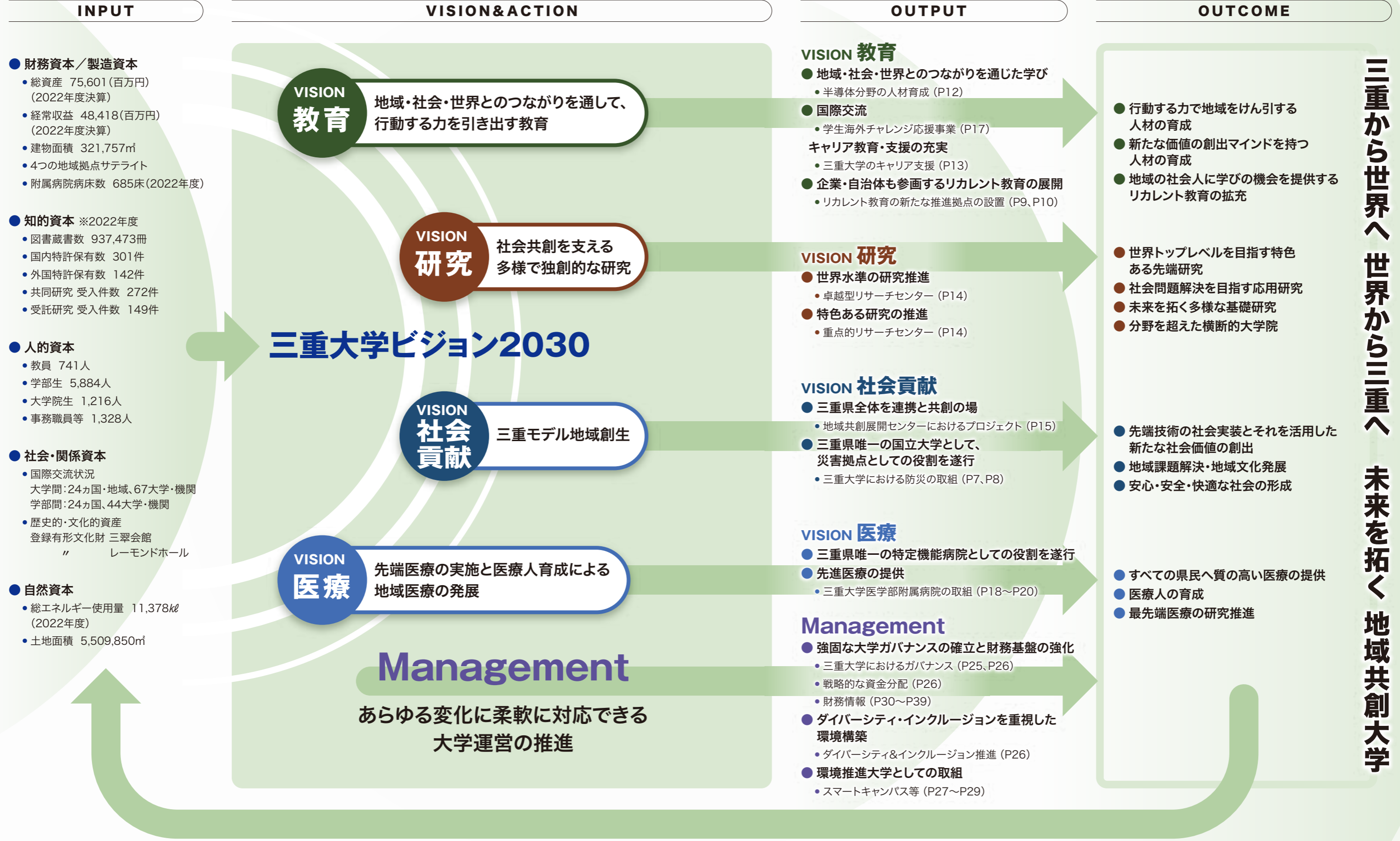
理事(広報・ブランディング担当)・副学長

田中 里沙



今年度の統合報告書では、三重大学ビジョン2030に沿った、本学の目指す目標や成果をステークホルダーの皆様へわかりやすく伝えることを目指し、作成いたしました。これからも、未来を共創する大学として、三重大学のブランド力を高めていくとともに、本学の強みや特色ある取組、教育・研究・診療について積極的に発信し、三重大学の「今」を皆様にご紹介いただけるように努めてまいります。

価値創造のストーリー



三重大学の目指す姿

三重大学の価値創造ストーリー

特集記事

活動実績

ガバナンス

財務情報

特集記事 // 三重大学の防災について

三重県と進める地域防災力向上の取組

大学と行政が一体となった組織で目指す“レジリエントな三重づくり”

自然災害への備えとして、「自助」、「共助」を中心とした地域防災力向上に向けた取組は重要です。三重大学では、2013年に「地域圏防災・減災研究センター」を立ち上げ、全学から関連する教員が参画し、教育、研究、社会連携、災害医療などの面から地域の防災・減災に関する取組を行っています。2014年には三重県と共同で「三重県・三重大学 みえ防災・減災センター」を設置し、全国に先駆け大学と行政が一体となって人材育成・活用、地域・企業支援、情報収集・啓発、調査・研究などの幅広い分野において地域の防災力向上に向けた取組を推進しています。

当センターでは、大学の研究成果や人的資源を活用した防災・減災に関するシンクタンク機能と、行政や地域、企業等と結ぶ防災ハブとしての機能を併せ持ち、これらが有機的に連携することで「レジリエントな三重づくり」を目指す活動が進められており、地域共創大学を掲げる三重大学としても重要な取組として位置づけていきます。



三重大学医学部附属病院の取組

～医療救護活動の拠点となる災害拠点病院として地域の人々への防災意識を高める大規模市民公開講座を実施～

2023年3月25日、市民公開講座『これだけは知っておきたい! 南海トラフ大地震の津波への備え』を開催しました。

三重大学病院は災害拠点病院として、当院が位置する中勢伊賀医療圏の被災時は、圏内の病院、行政・消防・警察・自衛隊などと協働して災害対応を行い、北勢・南勢・東紀州および近隣県で大規模災害の発生時は、被災地からの傷病者を受入れるとともに、DMAT・DPATなどの災害対応の専門チームの派遣を行えるように整備しています。また、南海トラフ地震・津波被災時には、震度6強、1-2m浸水の被害が想定されていますが、状況に応じて臨機応変に多数傷病者受入対応や籠城体制を敷いて医療が継続できるように体制を整えています。

市民公開講座では、当院と地域防災専門家が災害時に役立つ応急処置や一次救命の方法に加えて津波被災後の感染症対策など、一般的な防災のほか、病院機能や感染対策など様々な視点からの演題を取り上げました。

今後も、防災や災害医療に関する取組を通じて蓄積してきた知識を地域の方々に共有し、防災における備えの大切さを共に考える機会づくりを進めていきます。

パネルディスカッション

パネルディスカッションでは「担架がない時の応急担架の作り方」、「胸骨圧迫はどれくらいの強さですればよいか」、「外出先での災害対策」等のテーマで講演を行いました。

屋内会場の様子

自助・共助をテーマとした「救命と救護の体験会」を開催

本看護師や医学部生、高校生ボランティアが主体となり、身近なものを代用して行う応急手当や傷病者の担架搬送、一次救命処置などのブースを展開し、水災害AR浸水体験、災害時に有用な簡易調理法(バッククッキング)等について地域の皆様にレクチャーし、体験をしてもらいました。

グラウンド

グラウンドでは防災ヘリ、ドクターヘリが着陸の様子を披露し、消防車、救急車、災害支援車両が整列。消防ブースでは消防服の試着体験も行いました。



前列左から 前業泰幸 三重県津市長、一見勝之 三重県知事
後列中央 堀 浩樹 医学系研究科長、右隣 池田智明 附属病院長、左隣 岸和田昌之 災害対策推進・教育センター長、ほか関係者

三重大学の目指す姿
三重大学の価値創造ストーリー
特集記事
活動実績
ガバナンス
財務情報

三重大学の目指す姿
三重大学の価値創造ストーリー
特集記事
活動実績
ガバナンス
財務情報

特集記事 // 三重大学のリカレント教育

リカレント教育センター

～三重大学のリカレント教育を推進する新たな拠点～

地域の社会人が「楽しみながら学べる場」

激変する社会環境の中、企業や公共機関はこの変化への対応を求められています。一方、深刻な人手不足により新たな人材の確保が困難となっており、社員や職員の力をアップデートして新たな事業や政策立案を進める必要に迫られています。このような状況から、リスキング・リカレント教育に対する社会からのニーズは、この数年の間に急増してきました。大学には、このようなニーズに応えられる豊富な教育資源があるものの、それを広く社会に向けて提供する体制は十分ではありませんでした。そこで三重大学では、社会人の皆様が楽しみながら新たな知識や新たなスキルを身につけられる場として2022年4月1日三重大学リカレント教育センターを設置しました。地域の幅広い皆様からのニーズにお応えするため、企業・公共団体が個別に必要とするスキルや知識を丁寧に聴き取り、オーダーメイドプログラムを提供すると

ともに、要望の多いDX/ICT分野については、レディーメイドプログラムを開発して提供しています。



リカレント教育センターキックオフシンポジウム

地域企業のDX推進を担える人材を育成するリスキングの取組

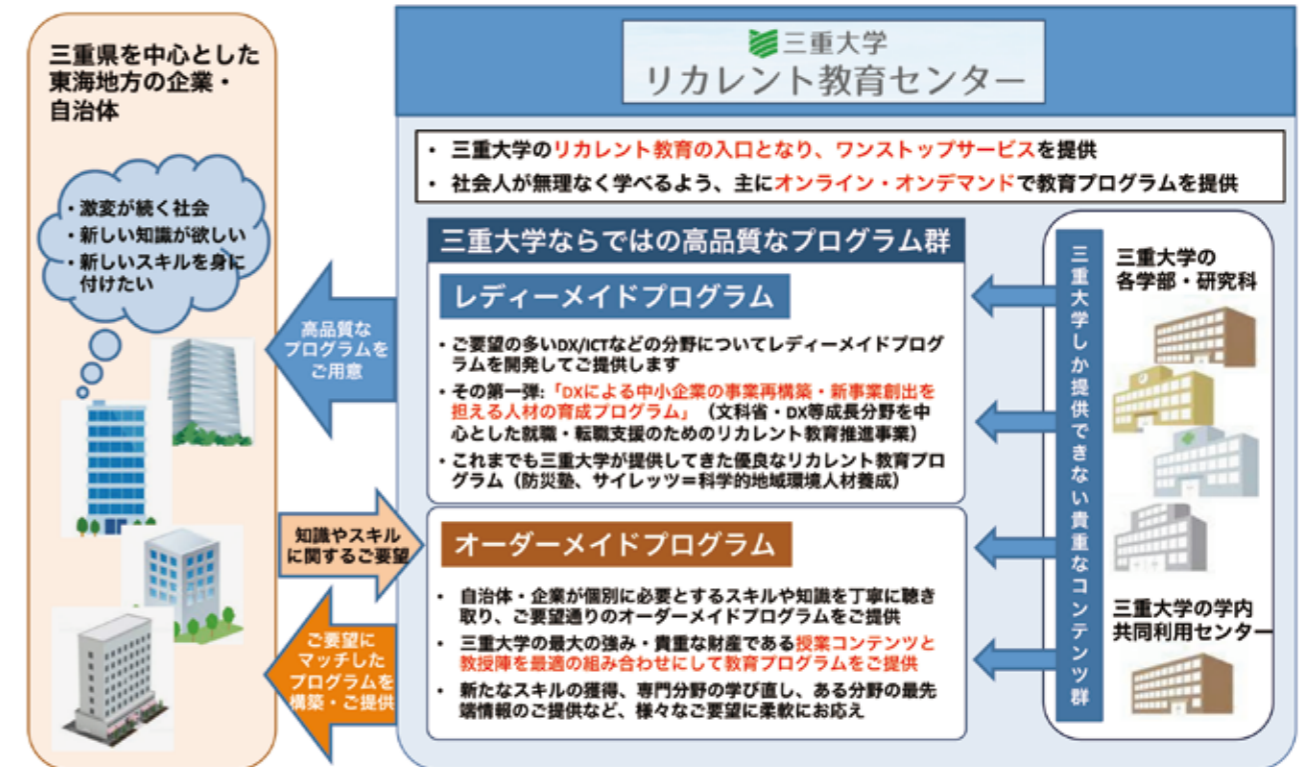
三重大学リカレント教育センターでは、地域企業が必要とするDX人材を育成するため、レディーメイドプログラムである「DXによる中小企業の事業再構築・新事業創出を担える人材の育成プログラム」(文科省・DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業)を開発し、地域の皆様に提供しました。今後もこのプログラムを継続的に提供するとともに、幅広い分野に対応した新たなレディーメイドプログラムを開発し、提供していきます。



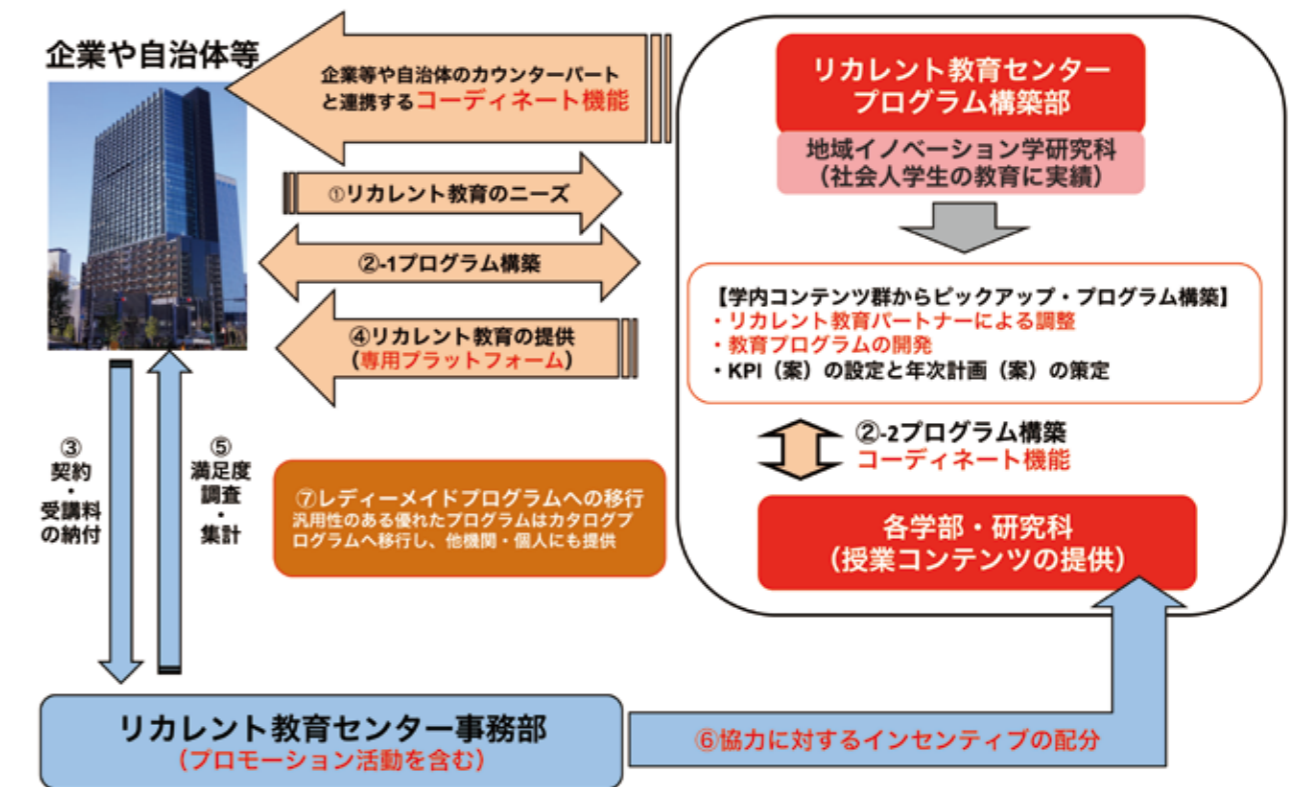
レディーメイドプログラム グループワーク風景

DXによる中小企業の事業再構築・新事業創出を担える人材の育成プログラムのPRチラシ

リカレント教育の入口となり、ワンストップサービスを提供



オーダーメイドプログラムの構築



活動実績



活動実績

教育

2023年4月 半導体・デジタル未来創造センターを設置

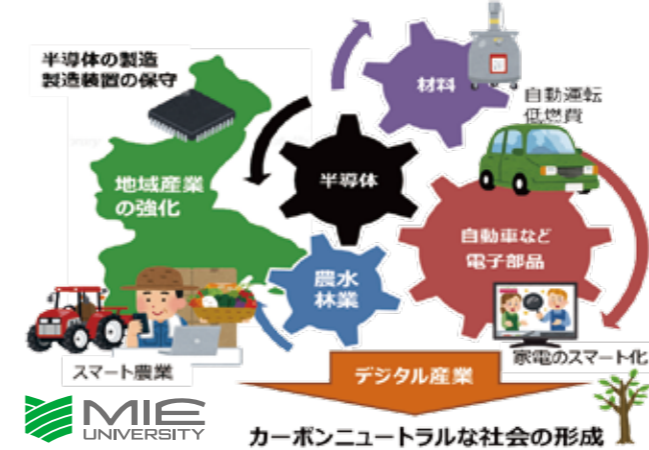
日本の半導体産業の重要拠点「三重」がデジタル社会の未来をリードする

カーボンニュートラルな社会の実現には、デジタル社会への変革が不可欠であり、その鍵となる素子が半導体です。半導体は、自動車、家電をはじめ各種製品の頭脳的作用を果たす部品です。三重県には、世界最大規模のNAND型フラッシュメモリ工場や半導体受託製造のファウンドリーがあり、また半導体関連企業が協業を行うなど、日本における半導体産業の重要拠点となっています。

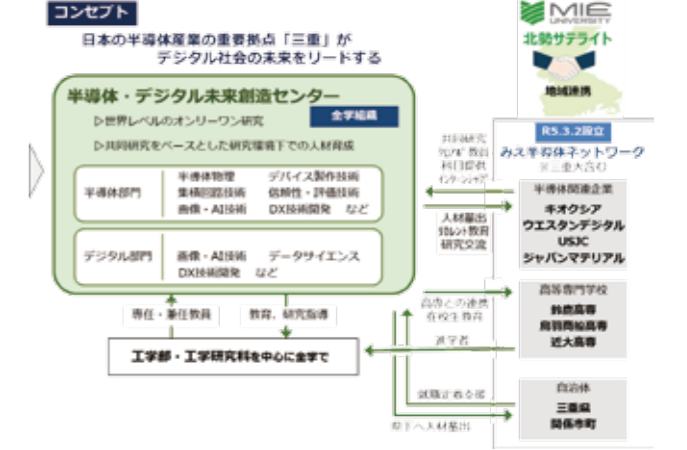
三重県は、2023年3月に知事を会長とする「みえ半導体ネットワーク」を設置し、地域の半導体産業の強化を推進しています。

三重大学においても、半導体分野及びデジタル関連分野に関する世界レベルの研究推進と共同研究をベースとした研究環境下で人材育成により、地域産業の発展に貢献することを目的に、「半導体・デジタル未来創造センター」を2023年4月に設置しました。

「カーボンニュートラルな社会に不可欠なデジタル技術の図の部品は半導体」



「地域の産業、自治体、高専と連携する半導体・デジタル未来創造センター」

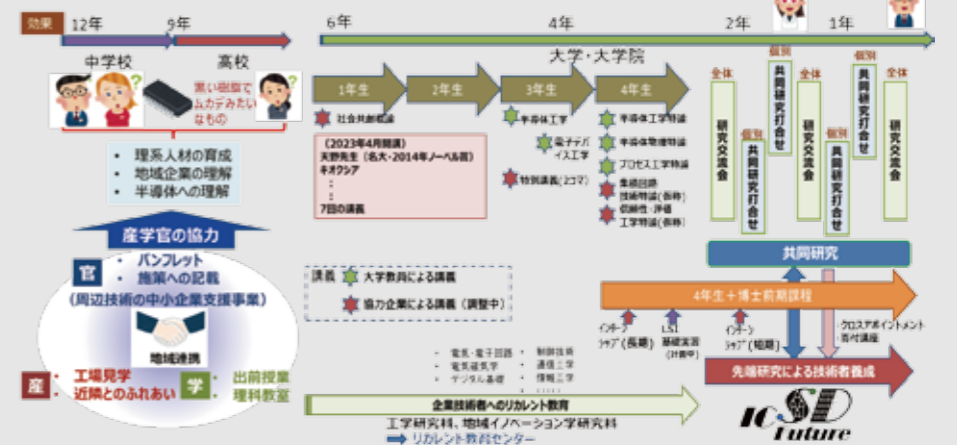


Topics

産学官連携により半導体分野の人材を育成

半導体分野の人材を中・長期的な視野で育成し、根本的に強化を図るためには、地域の産業、自治体、高専をはじめとする教育機関との連携が極めて重要です。短期的には、大学院の教育研究における強化で、共同研究を通して高い開発能力を持つ高度技術者を養成します。また、学部教育では、半導体に関する授業を企業の技術者と連携して強化します。さらに、入学生に対して、地域産業を理解し、工学を学ぶ意義を涵養します。

半導体分野の人材育成



社会共創概論

月日	講師	題目	教室	紹介者
5月10日	天野 浩	名古屋大学 未来材料・システム研究所 附属未来エレクトロニクス集積研究センター 未来デバイス部 教授	27番教室 Dr.小丸	三宅
5月17日	富谷 茂隆	ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社 第3研究部門 材料デバイス解析センター 主任研究員	27番教室	三宅
5月24日	福原 成太	キオクシア株式会社 四日市工場 企画部	27番教室	三宅
5月30日	山田 耕朗	トヨタ自動車株式会社 未来創生センター	12番教室	駒田
6月7日	平本 雅祥	一般社団法人 日本電機工業会 (JEMA) 家電部 部長	27番教室	駒田
6月28日	井村 彰宏	三菱重工業株式会社 総合研究所 パワーエレクトロニクス第二研究室 室長	27番教室	弓場井
7月19日	宮川鈴依奈	名古屋工業大学 大学院 工学研究科 物理工学専攻 助教	28番教室	三宅



名古屋工業大学 宮川鈴依奈 助教

活動実績

教育

三重大学キャリアセンターの取組について

学生一人ひとりに合わせたキャリアサポート

キャリアセンターでは、4月に開催するガイダンスを皮切りに、翌年3月に開催する企業合同説明会まで、自己分析、業界・職種・企業研究などの様々な講座・ガイダンスを計29回開催し、延べ8,206人の学生が参加しました。

また、専門のコウンセラーを2名配置し、学生からの相談や面接対策、エントリーシートの添削模擬面接等を行い、相談等に訪れた学生は延べ2,581人でした。

学部等の就職担当教員と連携し、全学で一体化した就職支援体制を確立することで、学生の状況に合わせた細やかな対応を行い、高い就職率を実現しています。



キャリアセンター前情報コーナー

2022年度実施ガイダンス | ■ 三重大学主催のガイダンス ■ インターンシップ ■ 合同説明会及び業界・職種・企業研究等

日程	開催場所	ガイダンス概要	日程	開催場所	ガイダンス概要	
4月13日(水)	WEB	①キャリアセンタースタートアップガイダンス	10月14日(金)	メール	就活裏話 ~採用活動のリアルな今~	
4月15日(金)	WEB	②就職活動スケジュール・準備について概要	10月19日(水)	メール		
4月20日(水)	WEB	公務員対策講座	10月21日(金)	WEB	就職もやもや部屋	
5月上旬~	WEB	インターンシップ先の探し方講座	10月25日(火)			
5月上旬~	WEB	インターンシップ履歴書対策講座	10月26日(水)	WEB	エントリーシート対策(自己PR・志望動機)	
5月13日(金)	WEB	インターンシップに向けた業界研究講座	10月28日(金)			
5月18日(水)			11月2日(水)	WEB	業界研究セミナー(15社)就職支援講座コラボ	
5月25日(水)			11月4日(金)	WEB	オンライン仕事体験 ~仕事について不安があり、就活・インターンシップに進めない学生の対策講座~	
5月27日(金)	WEB	インターンシップ学内企業説明会(協定締結企業 15社程度x4日程)	11月9日(水)	WEB	1・2年生向けガイダンス「キャリアデザイン講座」	
6月1日(水)			11月16日(水)			
6月3日(金)			11月18日(金)	WEB	業界研究セミナー(15社)就職支援講座コラボ	
6月8日(水)	WEB	自己分析対策講座(SPI性格検査)	11月22日(火)			
6月15日(水)	WEB	筆記試験対策講座	12月7日(水)	WEB	GD対策講座	
7月6日(水)	WEB	GD対策講座	12月13日(火)	WEB	就職もやもや部屋	
6月下旬~	WEB	インターンシップ事前研修会(人文学部)	1月11日(水)	WEB	面接対策講座	
		インターンシップ事前研修会(工学部)	1月18日(水)	WEB	公務員業務説明会	
		インターンシップ事前研修会(生物資源学部)	1月20日(金)	WEB	公務員業務説明会	
		インターンシップ事前研修会(教育学部・医学部)	1月25日(水)	WEB	就職活動直近ガイダンス(CC:学内企業説明会まわりかた講座+企業研究ノウハウ含む)	
10月1日(土)	WEB	保護者向け就職活動説明会	1月27日(金)	WEB	インターンシップ事後研修会(全学部)	
		学部別保護者向け説明会	2月13日(月)	WEB		
10月21日(金)	WEB	インターンシップ事後研修会(人文学部)	2月14日(火)~2月16日(木)	教養教育3号館	学内企業研究会 256社	
11月8日(火)		インターンシップ事後研修会(工学部)	2月17日(金)	WEB	就職もやもや部屋	
11月1日(火)		2月20日(月)	生物資源学部 2F 大講義室			生物資源学総まとめ講座(エントリーシート編)
11月9日(水)					生物資源学総まとめ講座(企業研究編)	
10月18日(火)					生物資源学総まとめ講座(面接編)	
11月14日(月)		ZOOM	3月1日(水)~3月3日(金)			学内企業説明会 160社



個人面接対策の様子



カウンセラー室

活動実績

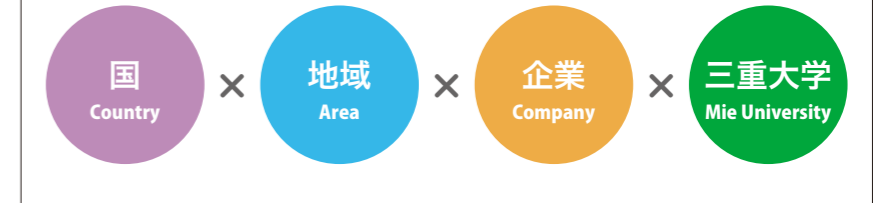
研究・社会貢献

社会共創を支える多様で独創的な研究

未来に拓く、研究による社会共創

三重大学は、多様で独創的な応用研究と基礎研究の充実を図り、固有の領域を伝承・発展させるとともに、総合科学や新しい萌芽的・国際的研究課題に鋭意取り組み、研究成果を社会に積極的に還元しています。

本学の研究が産業へ、経済へ、社会へと通じ、また自然へ、歴史へ、文化へと連なっていく。これこそが、私たちの本当の未来の姿を描き出す研究の動機であり、契機となります。世界水準の研究を推進し、研究成果を地域自治体や産業界との産学官連携活動等を通じて社会へ還元することによって地域との強い絆を持ち続けたいと考え、独自性・地域性・発展性のある優れた研究に対する支援や博士課程学生を含めた若手研究者を育成していきます。



Topics 先端的・独創的な研究から新たな知の創出を目指すリサーチセンター

三重大学では既存の研究室の枠にとらわれずに、独創的な研究の創出を目指す研究グループをリサーチセンターとして認定しています。さらに、「卓越型リサーチセンター」として、世界トップレベルの卓越した先端研究2グループを認定し、また「重点リサーチセンター」として、先端研究、地域課題解決を目指す研究、地域に根ざしたオンリーワン研究を行う9グループを

認定しています。これらのセンターに対し、資金の提供や研究スペースの貸与を実施し、その取組を全学的に支援しています。このうち「次世代型VLPワクチン研究開発センター」では、令和5年度の国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)のワクチン・新規モダリティ研究開発事業に採択され、経鼻ワクチンの実用化に向けて研究を進めています。

卓越型リサーチセンター・重点リサーチセンター一覧 | (R5.4.1)

センターの名称	代表者
卓越型リサーチセンター	
エネルギー材料統合研究センター	工学研究科 今西 誠之
半導体の結晶科学とデバイス創製センター	工学研究科 三宅 秀人
重点リサーチセンター	
センターの名称	代表者
包摂的社会に向けたレジリエントな地域社会基盤の構築に関する研究センター	人文学部 深井 英喜
みえ地域課題解決カリキュラムリサーチセンター	教育学部 宮岡 邦任
マイクロバイオーム研究センター	医学系研究科 小林 哲
次世代型VLPワクチン研究開発センター	医学系研究科 野阪 哲哉
人間共生ロボティクス・メカトロニクスリサーチセンター	工学研究科 池浦 良淳
Beyond-5G/6G無線通信応用技術研究センター	工学研究科 村田 博司
地域脱炭素バイオマス研究センター	生物資源学研究科 野中 寛
次世代漁業生産リサーチセンター	生物資源学研究科 松田 浩一
カンナビス研究基盤創生リサーチセンター	地域イノベーション学研究科 諏訪部 圭太



次世代型VLPワクチン研究開発センター代表 野阪哲哉教授

三重大学の目指す姿

三重大学の価値創造ストーリー

特集記事

活動実績

ガバナンス

財務情報

三重大学の目指す姿

三重大学の価値創造ストーリー

特集記事

活動実績

ガバナンス

財務情報

活動実績

研究・社会貢献

産学官で組織する地域共創プラットフォームの取組

地域の未来を共創するプロジェクトを展開しています

三重大学では2022年4月に地域共創展開センターを設置し、産学官連携プラットフォームを基盤に社会的インパクトのある成果を創出するプロジェクトを地域資源を活用して県内各地域で展開しています。

2022年11月に「桑名医療DXプロジェクト」、「桑名オープンフィールド構想～学官“共創”ふるさと納税事業～」、「四日市CNXプロジェクト」、「過疎・高齢化の中山間地域から日本の未来を拓く 御浜町のスマートヴィレッジ化構想」、「神事・産業用大麻研究プロジェクト」の5つの取組を、地域共創展開センタープロジェクトとして認定しました。それぞれのプロジェクトは、大学内にとどまらず、企業、自治体、団体などと一体となって地域の未来づくりに挑戦しています。

地域創生のモデルとなる社会的インパクトのある成果創出を目指して

桑名医療DXプロジェクト 佐久間 肇
桑名オープンフィールド構想 学官“共創”ふるさと納税事業 豊福 裕二
四日市CNXプロジェクト 池浦 良亨
過疎・高齢化の中山間地域から日本の未来を拓く 御浜町スマートヴィレッジ化構想 岡島 賢治
神事・産業用大麻研究プロジェクト 藤訪部 圭太

地域課題解決に向けたプロジェクト

●「みえの未来図」を共創し展開する3つの部門
大学の持つ科学、企業の持つ技術、自治体の持つ政策の融合



みえの未来図共創機構地域共創展開センターHP
<https://www.rcdc.mie-u.ac.jp/>

産業の未来図部門

日本の地域モデルの未来図部門

持続可能社会モデルの未来図部門

行政(三重県/各市町)

連携企業

行政、連携企業と大学内の複数専門領域からなる異分野融合組織

活動実績

国際交流

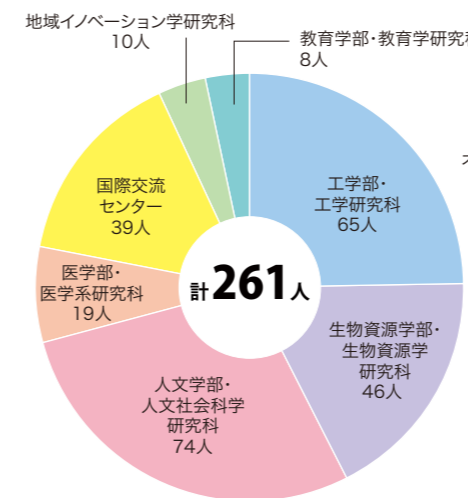
国際交流

三重大学から世界へ Global for Local, Local for Global

大学間レベル24か国・地域、67大学、学部間レベル24か国・地域、44大学と学術交流協定を締結し、学生の派遣、受入れや国際共同研究を行っています。様々な海外留学プログラムや留学生受入れプログラムにより、留学と留学生の受入れを促進し、グローバルな視点を持って国際的に活躍できる人材の育成を目指しています。

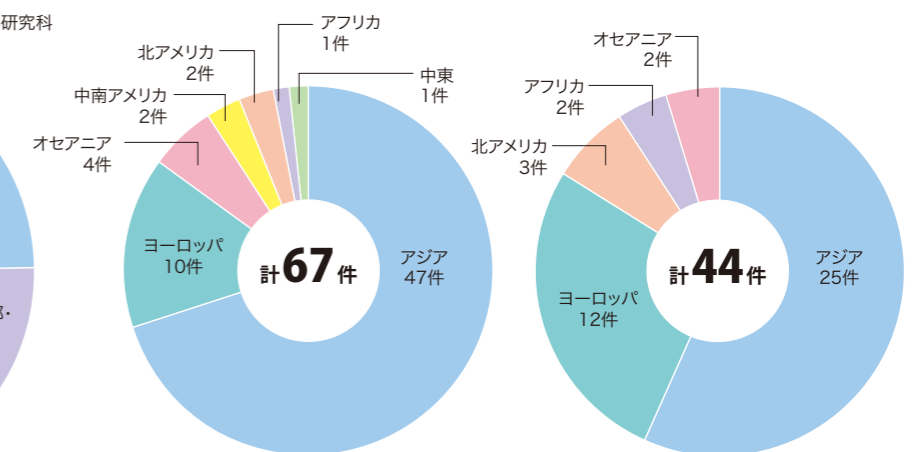


●外国人留学生数 (2023年5月1日現在)



外国人留学生数(学部・研究科等別)

●国際交流状況 (2023年4月1日現在)



海外大学間協定数(24カ国)

海外大学学部間協定数(24カ国)

マレーシアのタチ大学との大学間協定更新の調印式

2023年2月1日、マレーシアのトレンガヌ州にあるタチ大学との大学間協定更新の調印式を行いました。タチ大学とは13年にわたり協定に基づくさまざまな学術活動、研究、学生交流が行われてきております。これまでに三重大学からタチ大学に250人以上、タチ大学から三重大学に60人以上の学生・教職員が相互に訪問しています。

調印式には伊藤正明学長、久保雅敬特命副学長(教育改革担当)、金子聡特命副学長(国際交流担当)・国際交流センター長が出席し、更新調印が行われました。意見交換ではタチ大学から「今後は教員、学生のみではなく、大学運営を支える職員の交流も積極的に行ってはどうか」など、更なる連携への提案がなされました。



調印式の様子

活動実績

国際交流

学生海外チャレンジ応援事業

学生海外チャレンジ応援事業とは、世界に飛び出して、学業の達成やキャリア形成のための活動にチャレンジする学生の思いを応援する、三重大学独自の学生支援事業です。採用には渡航先及び滞在日数に応じて最大50万円の奨学金が支給されます。2022年度は5名が採用され、米国・インドネシア・オーストラリアへの渡航を実現させました。世界を舞台とした学生たちのチャレンジ、勇気を持ってこの渡航を果たした学生たちの今後の活躍が期待されます。2023年度はさらに採用規模を拡大して実施することが決定しています。



活動実績

地域医療・先進医療

つながる医療、みえる未来

信頼と安心が得られる地域医療の拠点として、未来を拓く診療、研究を推進し、人間性豊かな優れた医療人を育成します。

当院には、県内唯一の大学病院として、また特定機能病院として3つの役割があります。3つの役割を担うため、医学部、医学系研究科、附属病院の3つが連携し、多職種の職員が動いています。

(3つの役割)

- 人間性豊かな優れた医師や医療者の育成
- 最先端の医療の提供や医療技術の開発
- 「最後の砦」となる重症患者さんに対する医療の提供



がん診療連携拠点病院、がんゲノム医療拠点病院、小児がん拠点病院と3つの認定を同時に受けている施設は全国でもわずかです。また、総合がん治療センターを設立し、県内のがん患者へより質の高い治療を提供する体制を整えています。

Topics ● Tri-U国際ジョイントセミナー&シンポジウム

Tri-U国際ジョイントセミナー&シンポジウムは、三重大学、チェンマイ大学(タイ)、江蘇大学(中国)、IPB大学(インドネシア)、廣西大学(中国)、メージョー大学(タイ)の6大学が交代でホスト校を務め、毎年開催される研究論文発表を中心とした国際交流プログラムです。例年、アジアの10数大学が集まり、英語での研究発表会やワークショップを行います。2023年度はメージョー大学にて行われる予定です。



Tri-U国際ジョイントセミナー&シンポジウム発表の様子

● 国立ワイカト大学(ニュージーランド)語学研修

本学協定校の国立ワイカト大学での英語研修及び異文化交流ができるプログラムでは、レベル分けされたクラスで、日本では体験できないユニークな授業が受けられます。滞在は各家庭に日本人1人となるホームステイとされているため、生きた英語が学べます。週1回、現地の大学生と交流ができるEnglish clubも好評です。



授業風景



ラグビー観戦

● タチ大学(マレーシア)英語研修

本学協定校のマレーシア・タチ大学での研修プログラムは、教室で行われる授業より、街に出て様々な異文化交流を通して英語を学びます。現地の大学生が必ず同行し、常に英語の環境で過ごせるところが魅力です。リアルな英語でのコミュニケーション力が身に付きます。



現地の大学生とともに交流



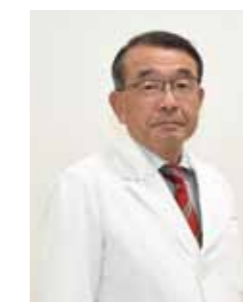
発表の様子(最終日)



病院概要

- 病床数685床(一般655/精神30)
- 職員数 1,960人 ※2023年6月1日現在
 医師・歯科医師 546人(医員・研修医含む)
 薬剤師 65人
 看護師 769人
 技術等 234人
 事務系職員・その他 346人
- 指定状況等

がん診療連携拠点病院、小児がん拠点病院、がんゲノム医療拠点病院、エイズ治療拠点病院、肝疾患診療連携拠点病院、三重県アレルギー疾患拠点病院、地域災害拠点病院



副理事(附属病院担当)・副学長・附属病院長
池田 智明

本院は、患者さんと職員の幸せファーストの病院を目指しております。患者さんやご家族にとって、心穏やかに優れた治療を安全に受けられることができる病院であり続けるよう尽力いたします。

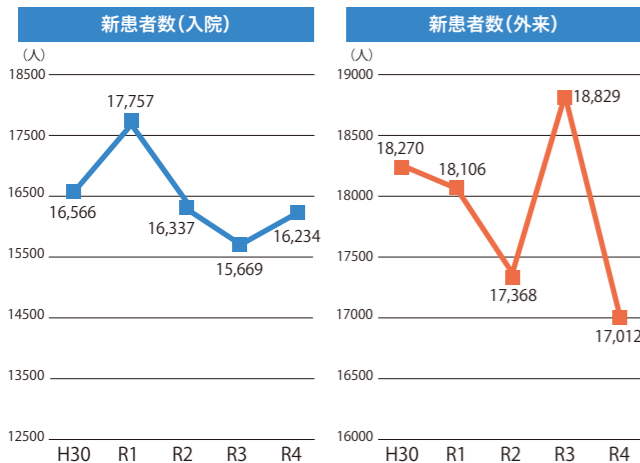
活動実績

地域医療・先進医療

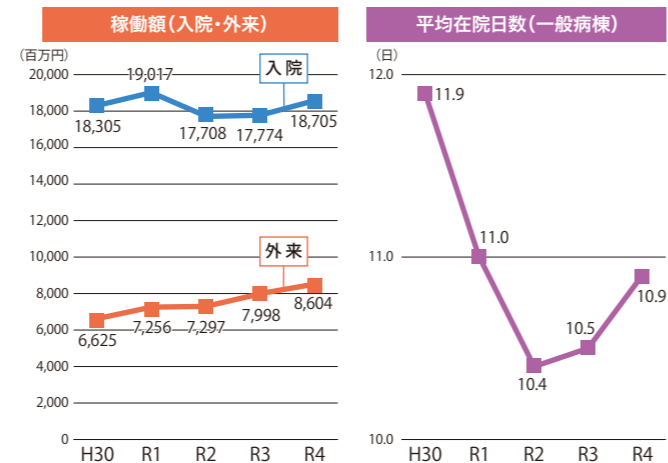
経営状況

重要経営指標である新入院患者数・手術件数等は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり2020～2021年度は減少傾向にあったが、2022年度は回復傾向にあり、コロナ禍においても急性期病院としての役割を果たしています。

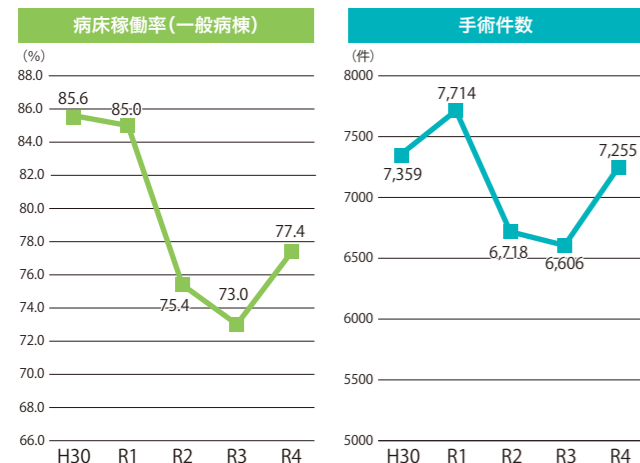
新患者数推移



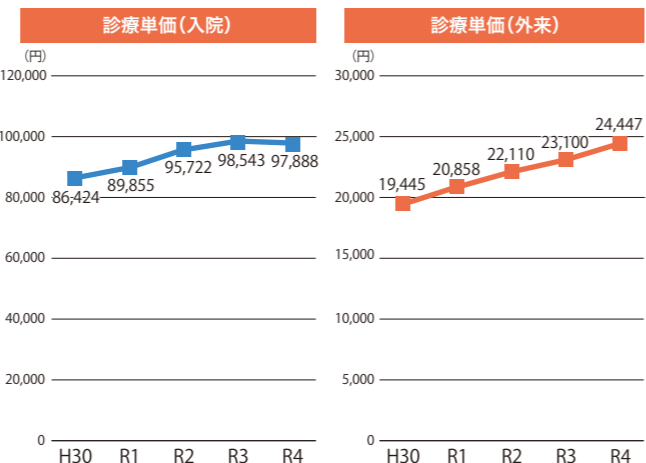
稼働額および平均在院日数



病床稼働率および手術件数



診療単価

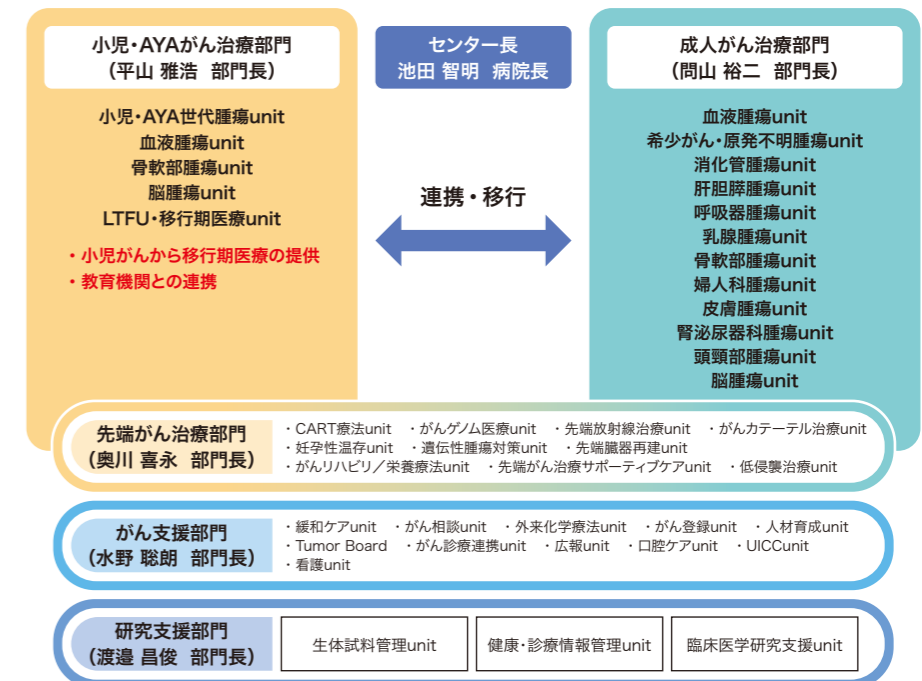


地域医療の拠点としての取組

「総合がん治療センター」の設立

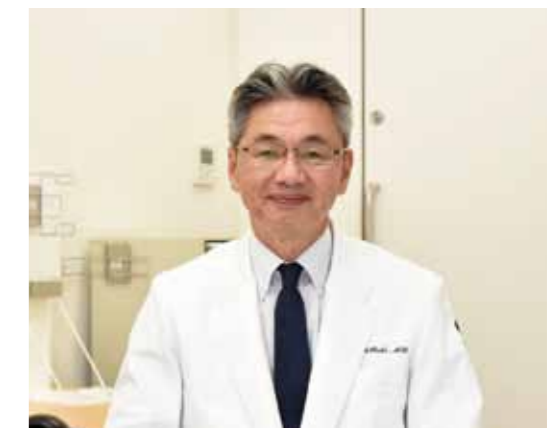
県内のがん患者によりよい治療の提供が行えるよう、様々な診療科が連携してがん治療に取り組む「総合がん治療センター」を立ち上げました。センターは5部門で構成され、その下にはそれぞれ診療科・職種横断的なUnit(チーム)が置かれています。より質の高い集学的治療の提供、併存疾患を持つがん患者へのスムーズな対応など、Unit診療を通じて、患者中心に捉えた医療の質の向上を目指します。また、緩和、アピアランスケアなど包括的ながん医療の実施や、新しい治療の開発、がん研究成果の発信も積極的に行っていきます。

総合がん治療センター組織図



難治性血液がんに対するCAR-T療法

CAR-T療法(キムリア®)の治療提供可能施設に認定され、当院での治療が開始されました。この治療法は、白血病や悪性リンパ腫といった難治性血液がんに対し、患者自身が持っている免疫細胞の一種であるT細胞を血液から採取し、がんに打ち勝てるよう強力にして再び体内に戻すという自らの免疫力を生かす新たな治療です。パワーアップしたT細胞は体内で増殖し、がん細胞を攻撃・破壊する仕組みになっています。院内に「CAR-T療法委員会」を設置し、県内の病院とも強力に連携し、必要とされる方に治療を提供できる体制を整えています。



輸血・細胞治療部 大石晃嗣部長

Topics 当院のがん治療について紹介する広報誌「CANCER MEWS」

当院の最新がん治療について紹介する広報誌「CANCER MEWS」の発行を始めました。当院の取組、最新がん治療の紹介、また早期発見の大切さについてなど、がんに関する様々な情報をわかりやすく丁寧に発信しています。2022年度は、「膵がんの集学的治療」「がんをピンポイントに攻撃する高精度放射線治療」「膀胱がんに対するロボット支援下手術」の3つを発信しました。



Topics Frontline三重大学病院

当院の最新治療についてお伝えする「Frontline三重大学病院」がスタート。毎月第4金曜日に三重テレビの情報番組Mieライブに生出演しています。



Frontline三重大学病院番組の様子

Topics 脳卒中・心臓病等総合支援センターを開設しました

2022年厚生労働省モデル事業である「脳卒中・心臓病等総合支援センター事業」に東海地域では唯一採択され、本センターを開設しました。本センターは県と地域の医療機関が連携し、脳卒中や心臓病の患者さん・ご家族にとって包括的な支援体制の充実を図ることを目的とし、入院を問わず相談支援、発症時の症状や治療内容、退院後の生活指導など再発予防を含めた情報提供・普及啓発活動に取り組んでいます。



三重大学病院公式Youtube動画から

ガバナンス

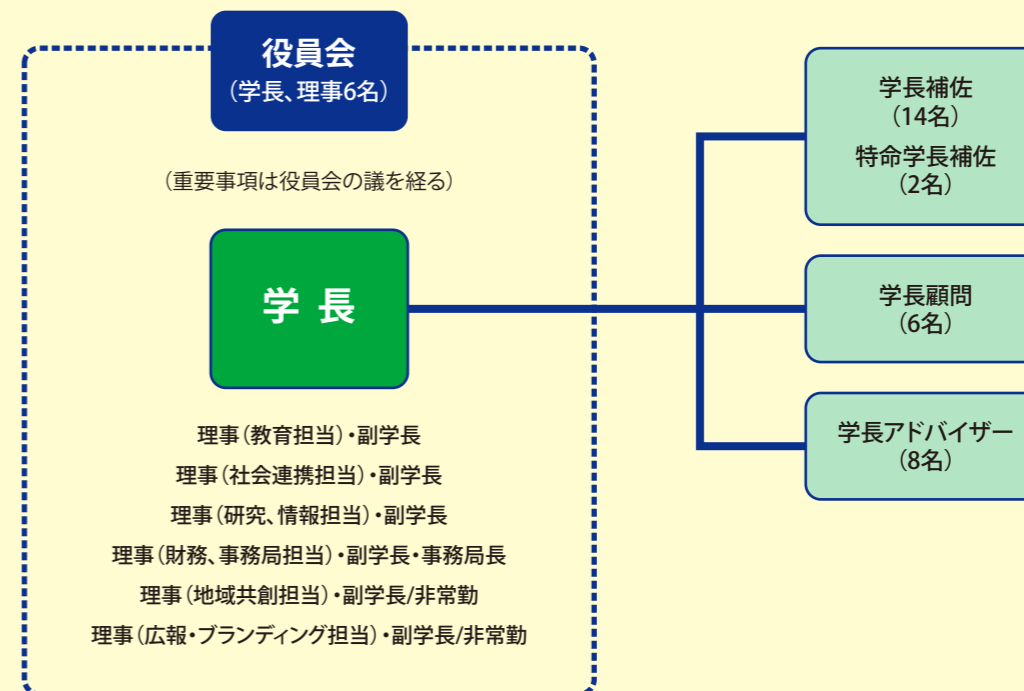


ガバナンス

組織

運営組織

監事
(2名)



- 参与(研究、社会連携担当)
- 副理事(附属病院担当)・副学長・附属病院長
- 副理事(研究、社会連携、経営担当)・副学長
- 副理事(法務、評価担当)・副学長
- 副理事(研究、社会連携担当)・副学長
- 副学長(教育(学生総合支援)担当)
- 副学長(教育(入試、高大連携、全学資格)担当)

- 副学長(教育(教学マネジメント、リカレント教育)担当)
- 副学長(広報、ダイバーシティ・インクルージョン担当)
- 副学長(国際交流、環境担当)
- 特命副学長(戦略企画担当)
- 特命副学長(教育(共通教育)担当)
- 特命副学長(ダイバーシティ・インクルージョン担当)

経営協議会

(主に経営面を審議)

- 学外有識者(10名)
- 学長
- 理事(6名)
- 学内者(1名)

(学長を選考等)

学長選考・監察会議

- 学外者(7名)
- 学内者(7名)

教育研究評議会

(主に教学面を審議)

- 学長
- 理事(6名)
- 学内者(20名)

ガバナンス

組織

モニタリング体制

監事監査

監事は、業務の適正かつ効率的な運営を確保すると共に、会計経理の適正を期することを目的に独立の機関として監査を実施しています。監査の方法は、内部監査部門や会計監査人と連携し、毎年度の監査計画に監査事項を設定して実施するほか、役員会・教育研究評議会・経営協議会やその他重要な会議に出席し、ガバナンス体制や学長および理事の職務の執行が法令などに適合することを確保するための体制(内部統制システム)について整備・運営状況を確認しています。

2022年度監査事項

- 役員会、経営協議会、教育研究評議会等の運営状況
- 会計処理、財務諸表の作成、決算報告の状況
- 附属病院と大学本体との関係、附属病院の運営状況
- ガバナンス・コードを含む監査意見への対応状況
- 第4期中期目標で定めた教育研究の質の向上に関する事項、特に「社会との共創」の推進に関する取組状況
- 新型コロナウイルス感染症への対応状況 等

内部監査

内部監査部門は、本学における諸活動の遂行状況の有効性・効率性や関係法令への準拠性を確認し、確認結果に基づく助言・勧告等を通じて業務活動の改善向上・経営効率の増進に資することを目的として監査を実施しています。

通常監査

毎年度の監査計画に監査事項を設定し、制度の妥当性や運用の合規性について、書面の検査、担当事務部門や教職員へのヒアリング等により確認しています。

2022年度監査事項

- 公的研究費の執行状況並びに管理体制について(改正ガイドラインに基づくコンプライアンス教育、啓発活動の実施状況の確認内部監査実施時の監事、監査法人との連携強化、研究力向上のための意見交換)
- 法人文書の管理状況について
- コロナ禍における学生への修学支援体制について
- その他改善状況等の確認(附属学校関連労働環境ヒアリングと改善状況の確認)

特定監査

特定監査は、学長が特に必要と認めた場合に実施される臨時監査です。

監事監査の機能向上

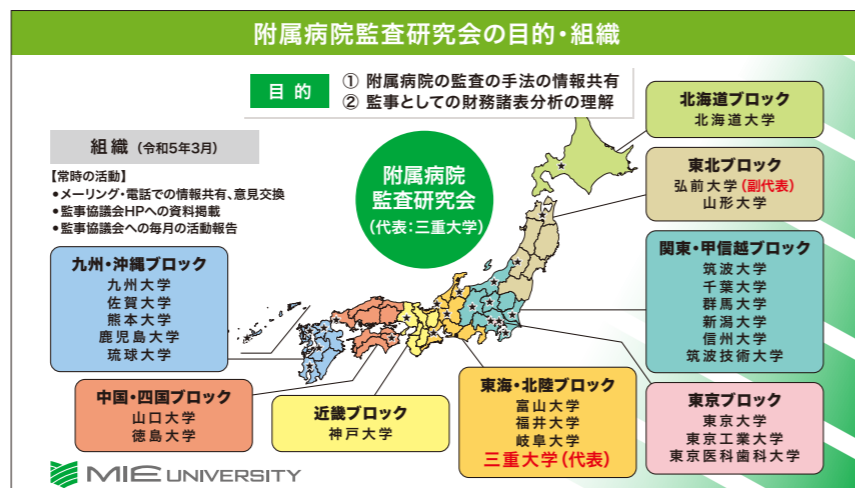
三重大学では他大学との横の繋がりにより得た情報を基に、モニタリング体制の一層の強化を図っています。2017年度から本学が代表となって国立大学法人等監事協議会に附属病院監査研究会(以下、研究会)を発足させ、研究会で議題となった案件を学内の監査に反映することで多様な観点からの監査に繋がっています。

右記、2018年度以降の活動・成果を簡潔に表記しました。



東京で実地開催した研究会の様子(九州大学東京オフィスにて)

国立大学法人等監事協議会附属病院監査研究会のネットワーク



2018年度	医療法改正に対応した独自の病院監事監査マニュアルを制定
2019年度	研究会での『毒物・劇物の管理』を基に内部監査を実施
2020年度	研究会に外部講師を招聘し、病院財務の講演会を開催
2021年度	研究会に外部講師を招聘し、国立大学病院で活用されている管理会計システムの特徴等について講演会を開催 病院監事監査マニュアルについて、新型コロナ対策などの最新事案の追跡調査が可能な内容に改訂
2022年度	研究会に外部講師を招聘し、医師の働き方改革に関する講演会を開催 病院業務における内部統制について他大学監事と意見交換

未来を拓く地域共創大学としての成長を推進する改革

大学の成長を推進する戦略的な資金配分

2022年度は、戦略的経営の観点により、大学の成長を推進することを主眼に予算編成を行いました。

まず、費用対効果の分析による事業の見直しや、各学部等が個別に実施していた事業について予算の統廃合を行う等、財源確保に取り組みました。その財源を活用して、「大学成長推進経費」(11億円)を新設し、4つの取組(下図)への集中投資を実施しました。例えば、研究に関しては「卓越型リサーチセンター」に1億円規模の大胆な資金投入を行い、半導体分野等の三重から世界トップを目指す先端研究推進に向けた大きな一歩を踏み出しました。

また、厳しい財政状況の中で大学が発展するために、限られた資源を効果的かつ効率的に成果に結びつけることが重要と考え、教育・研究・社会貢献すべての分野で戦略的かつスピード感のある資金投入が可能となるよう予算の構造を見直しました。

大学成長推進経費による4つの取組



ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)の推進について

ダイバーシティ&インクルージョン(多様性とその受容)を推進するため、以下の3点について定め、2022年12月に公表しました。

- 1.三重大学ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言(本学の基本方針及びD&I推進に向けての意思表明)
- 2.三重大学ダイバーシティ&インクルージョン推進計画(基本方針に基づいた目標及び対策)

公的研究費の不正防止に関する責任体制

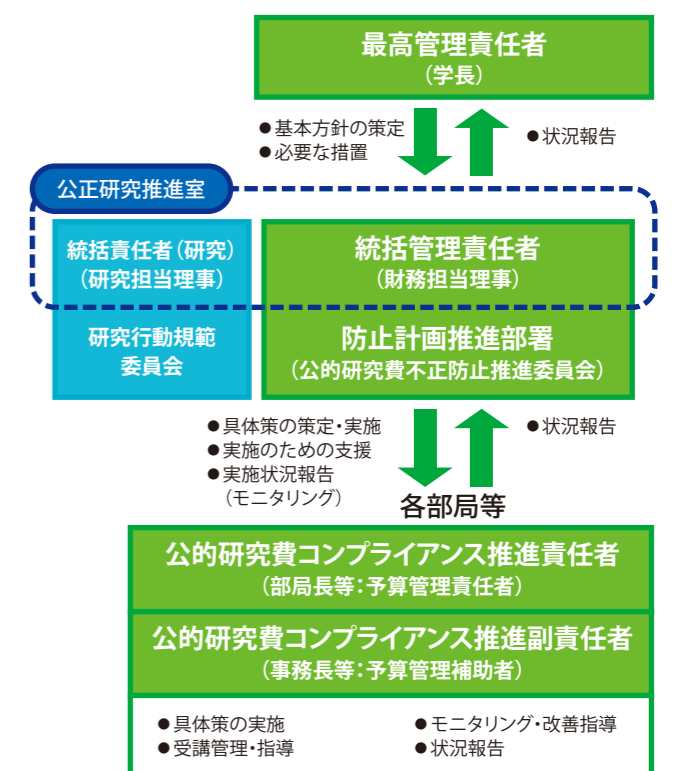
企業等との共同研究費や競争的研究費および運営費交付金から配分される研究費(以下「公的研究費」という。)を適正に運営・管理し、不正使用の発生リスク減少や防止を目的として、学長を最高管理責任者とする体制を構築しています。

公的研究費の不正使用を防止し、適正な管理・監査を行うための「三重大学における公的研究費の管理・監査の基本方針」や関連規程等を定めているほか、全構成員(研究費に関わる学生含む)に対し不正防止対策の理解や意識を高めるための公的研究費コンプライアンス教育・啓発活動や、「公的研究費不正防止計画」に基づくモニタリング等を実施し、不正使用の防止に努めています。

※関連規程等

三重大学ホームページ

URL <https://www.mie-u.ac.jp/social-coop/fraud-prevention/>



三重大学の目指す姿

三重大学の価値創造ストーリー

特集記事

活動実績

ガバナンス

財務情報

三重大学の目指す姿

三重大学の価値創造ストーリー

特集記事

活動実績

ガバナンス

財務情報

ガバナンス

環境

環境活動についての取組

サイレッツ 科学的地域環境人材 (SciLets) 育成事業

地域活性化の中核的拠点となることを志向する三重大学は、大学の機能強化戦略の一つとして、主に社会人を対象とした教育プログラムである「科学的地域環境人材 (SciLets) 育成事業」を実施しています。

本事業は、多忙な社会人に配慮してインターネットで受講できるビデオ講義方式を採用し、e-ラーニングシステムによる理解度確認テストにより環境教育要件を満たしたことが確認できた受講者には「アナリスト」の認定をしています。さらに環境共同研究などの環境実践要件を満たした受講者には「エキスパート」の認定をしています。本事業の受講者数は、2022年度に184人の申し込みがあり、2023年3月31日時点で延べ668人の社会人の方に受講いただき、年々認知が高まっています。



スマートキャンパスツアー

スマートキャンパス

本学は2011年度、風や太陽光などの再生可能エネルギーを有効に活用し、変動するキャンパス内のエネルギー需要を安定化させること、及び学内全体でスマート化と節電の行動によりキャンパスのエネルギー使用から排出するCO₂を削減することを目的としたスマートキャンパス事業を運用しています。

スマートキャンパス事業は、創エネ設備 (風力発電、太陽光発電、ガスコージェネレーション)、省エネ設備 (デシカント空調、LED照明)、そしてこれら設備の最適運用と監視を司るエネルギーマネジメントシステム (EMS) から構成されています。

また、この事業の実施で得られた省エネルギーに関する知見等については、学内外の学生・生徒と企業やエネルギー関連組織体などへの説明会 (スマートキャンパスツアー) を通して広く地域に還元しています。

サイレッツ *科学的地域環境人材 (SciLets) は「地域環境科学」という環境教育体系を基本として、環境問題を広く「環境問題・環境評価法」、「エネルギー技術」、「環境配慮技術」、「環境管理・ESD・SDGs」、「環境関連法・行政」、「大気・水と食の健康リスク」、「自然環境保護・生物多様性」、「気候変動問題」、「コミュニティ&インバウンド」および「環境経済・経営、ESG」の10分野に分類しています。



本事業は「環境省中部地方環境事務所」と「三重県」の後援を得ており、県内の全自治体 (29市町) を含めた153の企業等が事業に協力する連携パートナーとなっています。



SciLetsランディングページ

Topics COOL CHOICE の取組

季節の気温に合わせた服装の選択や、温室効果ガス排出量削減のための行動を学生教職員 (オール三重大学) で主体的に実施するため、冷暖房時期の空調設定温度や服装についてポスターを作成し、配布や掲示をしています。

近年、電気代等の高騰により大学経営を圧迫する光熱費対策として、定期的に年間光熱水費の想定・実績・差額を全学会議に報告し、問題意識を共有し省エネ啓発に役立てています。2011年度から運用を開始したスマートキャンパス設備 (ガスコージェネレーション (2000kW)、太陽光発電設備 (62kW) 及び

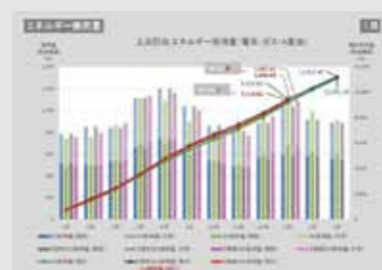
風力発電設備 (300kW))、2017年度から実施した省エネ積立金制度の省エネ改修等による光熱費削減に加え、オール三重大学で一丸となって取り組む省エネ活動により、光熱費高騰による影響を最小限に留めています。



COOL CHOICE ポスター



エネルギー報告



環境ISO学生委員会

環境ISO学生委員会は、学生主体でISO14001の認証取得を果たすことを目的として「環境マネジメントシステムの構築 (環境内部監査の実施、ISO14001のスキルアップセミナーの実施、環境・SDGs方針に沿った環境活動の実施)」や「環境マインドの向上 (環境・SDGs報告書の作成、地域や行政と協働した海岸清掃の実施、各種イベントの開催、シンポジウムへの参加や開催)」など学生の自由な発想で環境活動を推進しています。



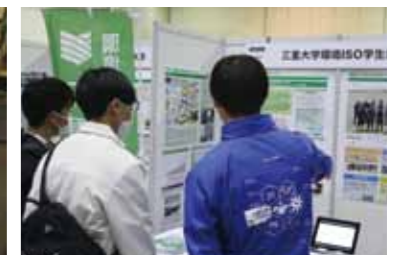
放置自転車回収



海岸清掃



古本市



エコプロ2022出展

「第16回環境マネジメント全国学生大会」を開催しました

2022年6月25日、26日に「第16回環境マネジメント全国学生大会」を開催し、全国の9大学12団体から73名の学生が参加しました。環境ISO学生委員会と学内のサークル、ESD-SDGsクラブが主体となる三重大学学生環境・SDGsプラットフォームが大会を主催しました。



第16回環境マネジメント全国学生大会の参加者
大会は対面・オンラインのハイブリッド形式で開催された



本大会は、1972年7月24日の「四日市公害訴訟判決」、同年6月に開催された世界初の国連人間環境会議 (ストックホルム会議) から50周年、さらに、2015年9月に採択された「国連持続可能な開発目標 (SDGs)」の2030年までの折り返しとなることから、四日市公害の「過去の負の遺産」を「未来の正の資産」に変えるため、全国から環境とSDGsに関わる学生団体が集まり、未来への夢と希望につなげる、持続可能な社会・カーボンニュートラル社会に向けた提案・行動を促すことを目的としています。

基調講演のほか、分科会では、「持続可能な開発目標 (SDGs)」、「カーボンニュートラル社会」、「グローバル環境人材」の3つのテーマについて討論し、本学の風力発電やガスコージェネレーションシステムの見学などキャンパスツアーや、エネルギーマネジメントシステムの紹介が行われました。



参加大学・団体代表による三重宣言



三重大学の目指す姿

三重大学の価値創造ストーリー

特集記事

活動実績

ガバナンス

財務情報

三重大学の目指す姿

三重大学の価値創造ストーリー

特集記事

活動実績

ガバナンス

財務情報

ガバナンス

環境

「つ・環境フェスタ2022」に出展し、「グリーンのカートンコンテスト『優秀賞』」を受賞

2022年11月27日に「つ・環境フェスタ2022」が「めざせ！2050カーボンニュートラルー未来へ挑戦 守ろう次世代」に参加しました。

本学からは、環境ISO学生委員会の活動と環境リカレント教育(SciLets:サイレッツ)の紹介、そして、学生委員会による海岸清掃で

集めた流木などを活用したペン立てづくりのワークショップを行いました。

また、当日は「グリーンのカートンコンテスト」(環境フェスタ実行委員会主催)の入賞者発表が行われ、環境ISO学生委員会が育てたヘチマのグリーンカーテンが事業所部門で優秀賞を受賞しました。



「優秀賞」受賞



環境情報科学館前のグリーンカーテン

Topics 「日韓環境・SDGsフォーラム in 三重」を開催

2022年7月15日に三重大学において、2030年の持続可能な社会、2050年のカーボンニュートラル社会形成に向けて、国連持続可能な開発目標(SDGs)・国連気候変動枠組条約締約国会議(COP)の動向及び世界保健機関(WHO)の気候危機による健康被害の提言を踏まえるとともに、日韓の国際環境協力と次世代人材育成を見据え、『日韓環境・SDGsフォーラムin三重～持続可能な社会・カーボンニュートラル社会に向けた国際環境協力と次世代人材育成』を開催しました。

第1部では朴 恵淑三重大学特命副学長から、「三重大学の環境・SDGs・カーボンニュートラル社会創生戦略とグローバル人材育成」、金 正仁韓国中央大学教授から、「韓国のカーボンニュートラルとSDGsの動向」についてオンラインでの基調講演を行いました。第2部では「日韓の国際環境協力と次世代人

材育成」のテーマでパネルディスカッションを行い、日韓のグローバル・パートナーシップによる環境・SDGsの推進と人材育成に関し意見交換を行いました。



パネルディスカッションの様子



基調講演の様子



財務情報



財務情報

三重大学の令和4年度決算概要

国立大学法人は、「国立大学法人会計基準」に基づいて毎年度財務諸表を作成し、財政状態や運営状況などの財務情報を公表しています。

貸借対照表(B/S) (令和5年3月31日)

貸借対照表は、年度末(3月31日)時点の本学の財政状態(資産、負債及び純資産の状況)を表します。

貸借対照表の概要

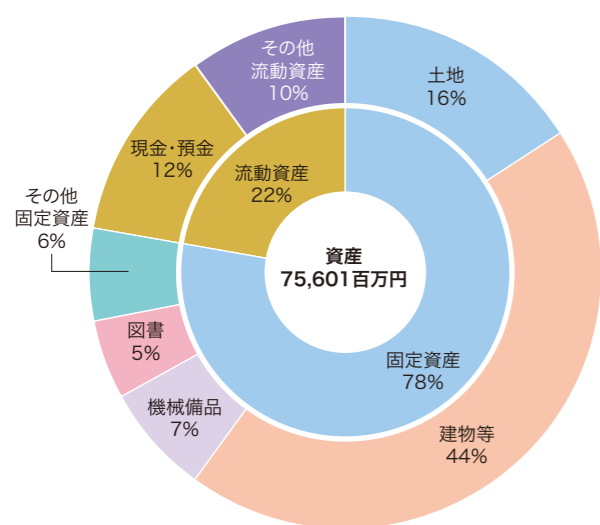
- 資産は、75,601百万円(前年度末比△1,475百万円)となっています。「投資その他の資産」の増加や学生納付金等の「未収入金」が増加したものの、それ以上に減価償却の進行等により減少したため、資産が減少しました。
- 負債は、34,243百万円(前年度末比△9,552百万円)となっていま

す。主に、会計基準の改定に伴う「資産見返負債」の収益化による減少や償還による「借入金」が減少したため、負債が減少しました。
● 純資産は、41,357百万円(前年度末比+8,076百万円)となっております。国立大学法人等の業務に関連して発生した剰余金である利益剰余金が増加したため、純資産が増加しました。

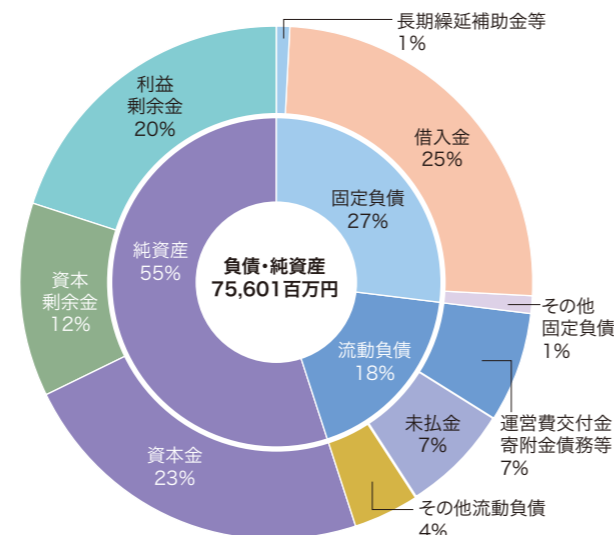
R3		R4		増減
資産の部				
固定資産 A	59,391	59,095	△ 295	
土地	11,807	11,807	0	
建物等	34,777	33,264	△ 1,513	
機械備品(船舶含む)	6,034	5,657	△ 376	
図書	4,014	4,005	△ 9	
美術品・收藏品	22	22	0	
車両運搬具	17	11	△ 5	
建設仮勘定	84	503	419	
無形固定資産	111	101	△ 10	
投資その他資産	2,521	3,721	1,200	
流動資産 B	17,685	16,505	△ 1,179	
現金・預金	10,825	8,942	△ 1,883	
未収入金	6,304	6,771	466	
(うち附属病院収入)	(4,910)	(4,961)	(50)	
(うち受託研究 他)	(1,394)	(1,810)	(415)	
その他	556	792	236	
合計 C(A+B)	77,077	75,601	△ 1,475	
負債の部				
固定負債 D	29,409	20,762	△ 8,647	
資産見返負債(補助金除く)	7,439	0	△ 7,439	
長期繰延補助金等(R3は資産見返補助金等)	716	751	35	
借入金	20,001	18,999	△ 1,002	
リース債務	827	532	△ 295	
その他	424	479	55	
流動負債 E	14,385	13,480	△ 905	
運営費交付金債務※1	0	20	20	
寄附金債務※1	4,023	3,798	△ 224	
前受受託研究費等	1,037	1,138	101	
借入金	1,771	1,828	57	
未払金	6,443	5,382	△ 1,061	
その他	1,110	1,311	201	
負債 F(D+E)	43,795	34,243	△ 9,552	
純資産の部				
資本金	17,420	17,420	0	
資本剰余金	9,350	8,576	△ 773	
利益剰余金	6,511	15,361	8,850	
(うち目的積立金)	(1,087)	(6,078)	(4,991)	
純資産 G	33,281	41,357	8,076	
合計 H(F+G)	77,077	75,601	△ 1,475	

※1: 運営費交付金や授業料、寄附金は、国や国民等から負託された業務の財源であり、一旦、債務として負債に計上し、業務の進行に応じて収益化を行う。

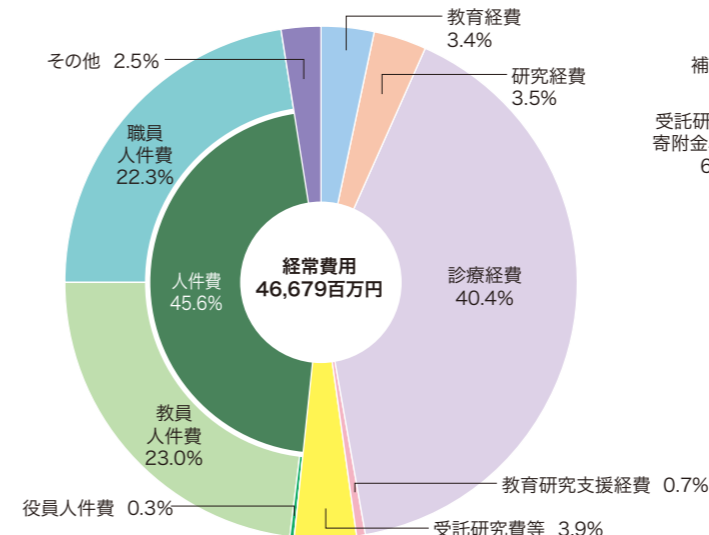
資産の構成内訳



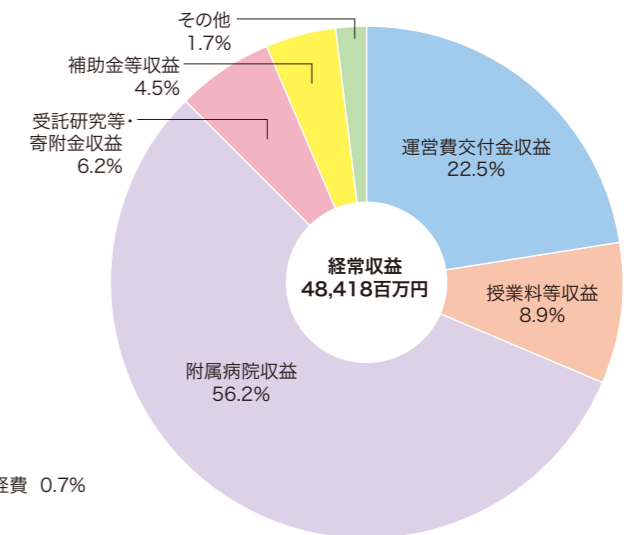
負債・純資産の構成内訳



経常費用の構成内訳



経常収益の構成内訳



損益計算書(P/L) (令和4年4月1日~令和5年3月31日)

損益計算書は、一事業年度(4月1日~3月31日)における本学の運営状況(費用、収益の発生による損益状況)を表します。

損益計算書の概要

- 経常費用は、46,679百万円(前年度比+1,003百万円)となっています。人件費が、支給人数の減等による減少や、一般管理費が、本部管理棟改修がR3年度に完了したことにより減少したものの、それ以上に診療稼働の増加により診療経費が増加したため、経常費用が増加しました。
- 経常収益は、48,418百万円(前年度比+912百万円)となっていま

す。主に、附属病院収益の増加や、授業料等収益等が増加したため、経常収益が増加しました。
● 当期総利益は、9,282百万円(前年度比+7,224百万円)となっております。そのうち経営努力により生じた利益として、文部科学大臣の承認を受けた額は、翌期以降の事業の財源に充てられます。

R3		R4		増減
経常費用 I	45,675	46,679	1,003	
教育経費	1,559	1,581	21	
研究経費	1,613	1,637	23	
診療経費	17,362	18,847	1,485	
教育研究支援経費	418	332	△ 86	
受託研究費等	1,726	1,814	88	
人件費	21,579	21,307	△ 272	
一般管理費	1,342	1,096	△ 246	
財務費用	72	61	△ 10	
経常利益 K(J-I)	1,830	1,739	△ 91	
臨時損失 L	128	22	△ 106	
当期総利益 O (J+M+N-I-L)	2,057	9,282	7,224	
合計 P(I+L+O)	47,861	55,983	8,121	
経常収益 J	47,506	48,418	912	
運営費交付金収益	11,107	10,982	△ 125	
授業料等収益	3,870	4,342	472	
附属病院収益	25,626	27,201	1,574	
受託研究等収益	1,815	1,810	△ 5	
寄附金収益	743	1,160	417	
補助金等収益	2,949	2,174	△ 774	
施設費収益	158	126	△ 31	
資産見返負債戻入	649	0	△ 649	
雑益	585	620	34	
臨時利益 M	94	7,455	7,361	
積立金取崩額 N	261	109	△ 151	
合計 Q(J+M+N)	47,861	55,983	8,121	

三重大学の目指す姿

三重大学の価値創造ストーリー

特集記事

活動実績

ガバナンス

財務情報

三重大学の目指す姿

三重大学の価値創造ストーリー

特集記事

活動実績

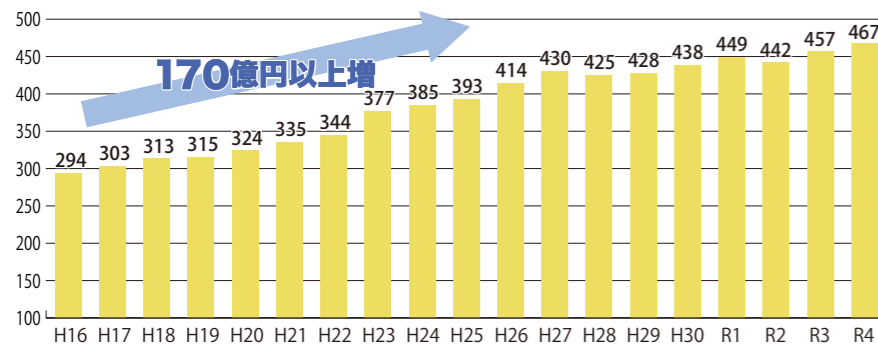
ガバナンス

財務情報

財務情報

経常費用の推移

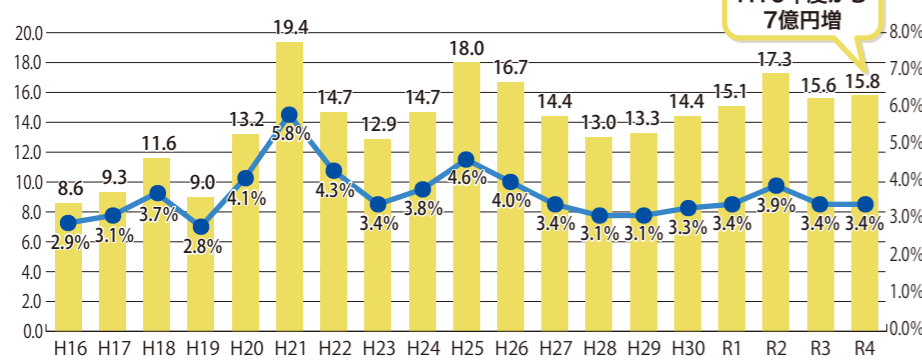
■ 経常費用の推移(単位:億円)



ポイントoint

H16年度の法人化以降、経常費用は170億円以上増加しています。主な、費用の推移を下のグラフで紹介いたします。

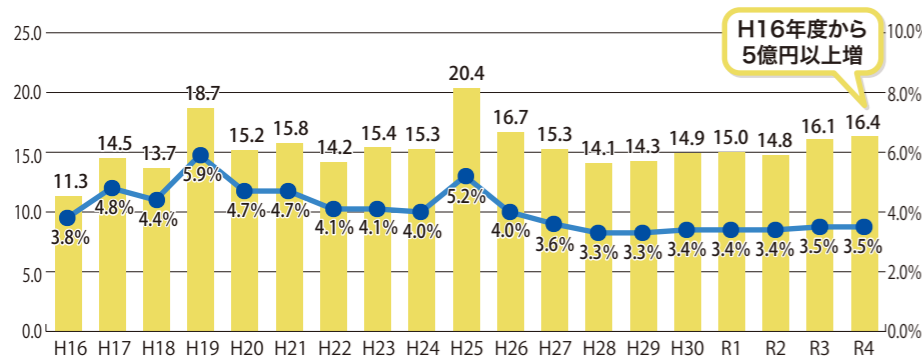
教育経費比率の推移



ポイントoint

学生の教育にかかる教育経費について、大きな事業があった年度は経費が増えるため、年度により大きな変動があるものの、H16年度から7億円増加しています。R4年度は、光熱水料の増加等により教育経費がR3年度よりも0.2億円増加しています。なお、教育経費比率について、数値が高いほど、学生の教育にかかる教育経費が大きいことを示します。
※R3年度の病院を有する同規模大学の平均値:4.3%

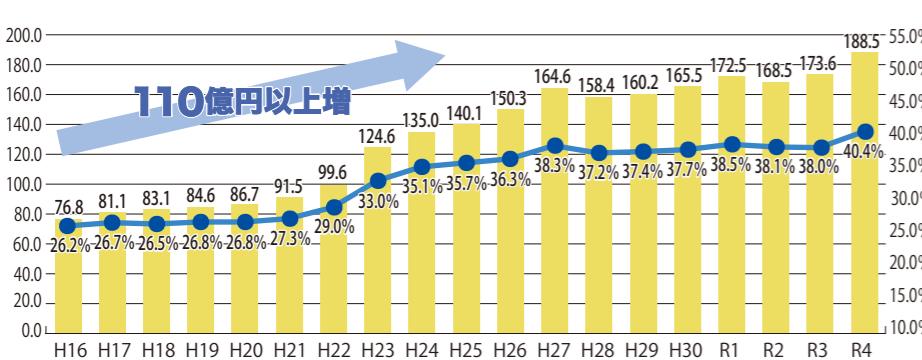
研究経費比率の推移



ポイントoint

研究にかかる研究経費について、大きな事業があった年度は経費が増えるため、年度により大きな変動があるものの、H16年度から5億円以上増加しています。R4年度は、研究目的の旅費や光熱水料が増加したためR3年度よりも0.3億円増加しています。なお、研究経費比率について、数値が高いほど、教員の研究にかかる研究経費が大きいことを示します。
※R3年度の病院を有する同規模大学の平均値:4.4%

診療経費比率の推移

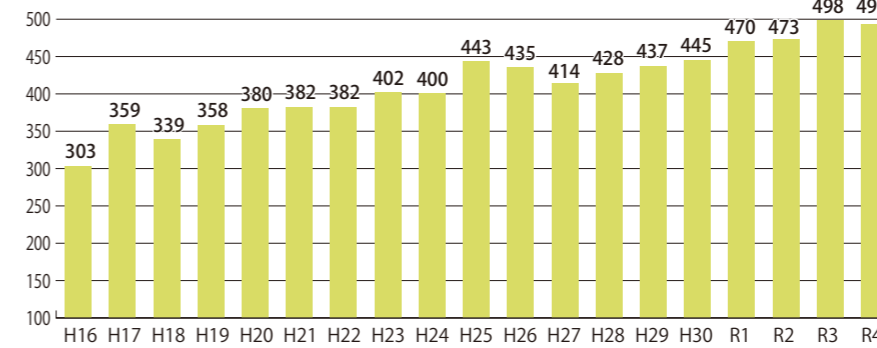


ポイントoint

診療経費はH16年度の法人化以降、増加傾向にあり、H23年度の新病棟開院、H27年度の新外来棟開院を経て、H16年度から110億円以上増加しています。R4年度は、診療稼働の増加に伴う医薬品・診療材料費等の増加により、R3年度よりも14.9億円増加しています。なお、診療経費比率について、数値が高いほど、診療にかかる診療経費が大きいことを示します。
※R3年度の病院を有する同規模大学の平均値:37.8%

収入の推移

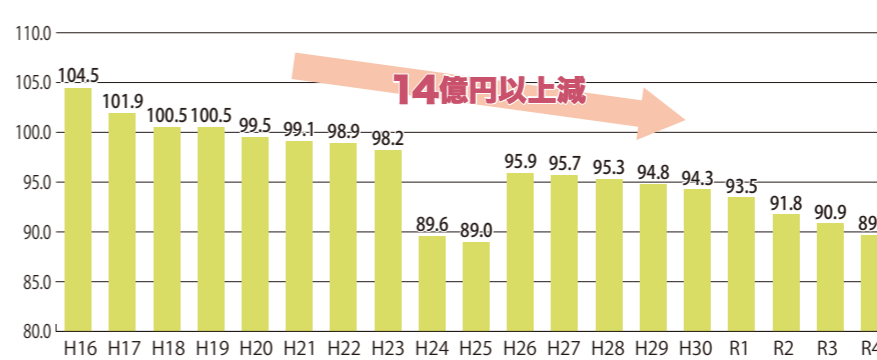
■ 収入の推移※借入金除く(単位:億円)



ポイントoint

H16年度の法人化以降、収入は190億円増加しています。施設整備費などの補助金措置等があった年度は、収入が大きくなります。主な、収入内訳の推移を下のグラフで紹介いたします。

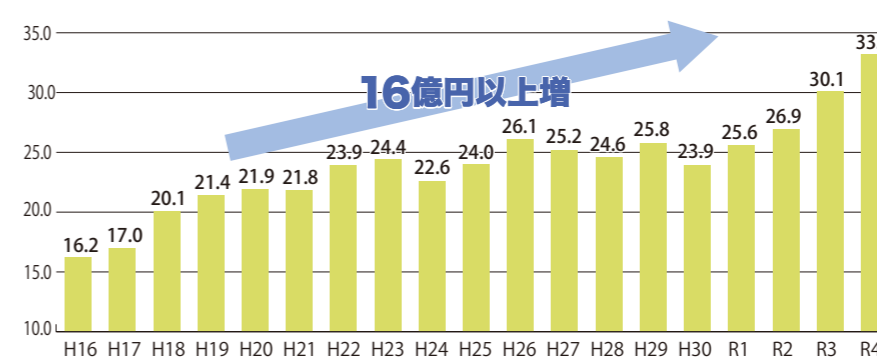
基盤的運営費交付金の推移



ポイントoint

国から交付される資金である運営費交付金は、法人化以降、年々削減されており、H16年度から14億円以上削減されています。R4年度は、R3年度よりも1.2億円の減少となっています。そのため、業務費の支出見直しの他、外部資金等の確保による自己収入の増収に努める必要があります。
※H24・25年度は給与改定臨時特例法による人件費相当額の減。

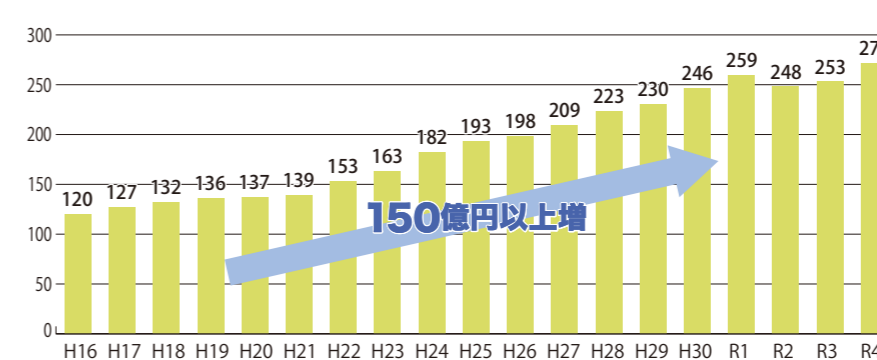
産学連携等研究収入及び寄付金収入等の推移



ポイントoint

産学連携等研究収入及び寄付金収入等は全体で見ると増加傾向にあり、H16年度から16億円以上増加しています。R4年度は、R3年度よりも3.1億円の増加となっています。運営費交付金が年々削減されていく中で、自己収入の確保において、外部資金の獲得はとても重要です。県内企業を積極的に訪問したり、公開セミナーを開催するなど、外部資金の獲得拡大に取り組んでいます。

附属病院収入の推移



ポイントoint

病院収入はH16年度の法人化以降、増加傾向にあり、H16年度から150億円以上増加しています。R4年度は診療稼働の増加もあり、コロナ禍以前よりも増加となりました。病院収入は大学全体収入の半分以上を占めています。

財務情報

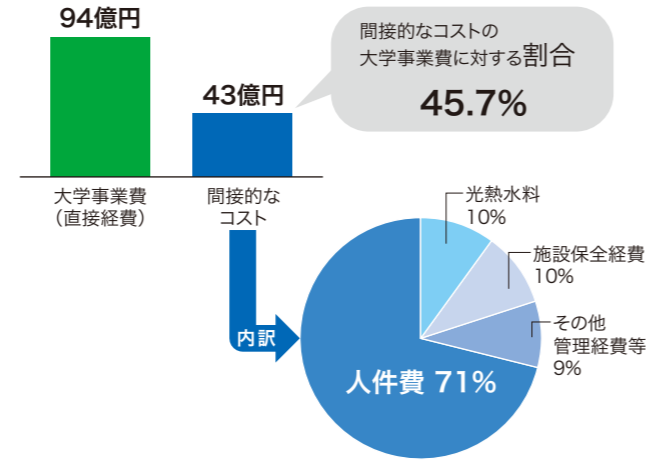
大学運営に係る間接的なコスト

大学運営に係る管理経費等の間接的なコストについて

大学が事業を行うにあたっては、教育・研究に直接かかるコスト(大学事業費(直接経費))の他に、管理事務スタッフの person 費や光熱水料、施設の保全などの間接的なコストがかかります。民間企業にそのコストをご負担いただくため、本学では間接経費をお願いしています。

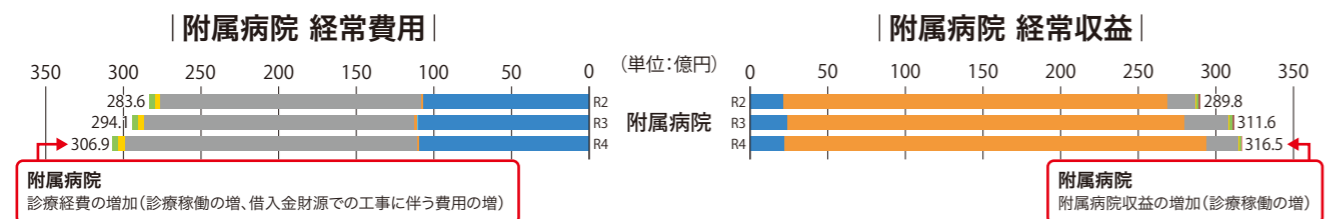
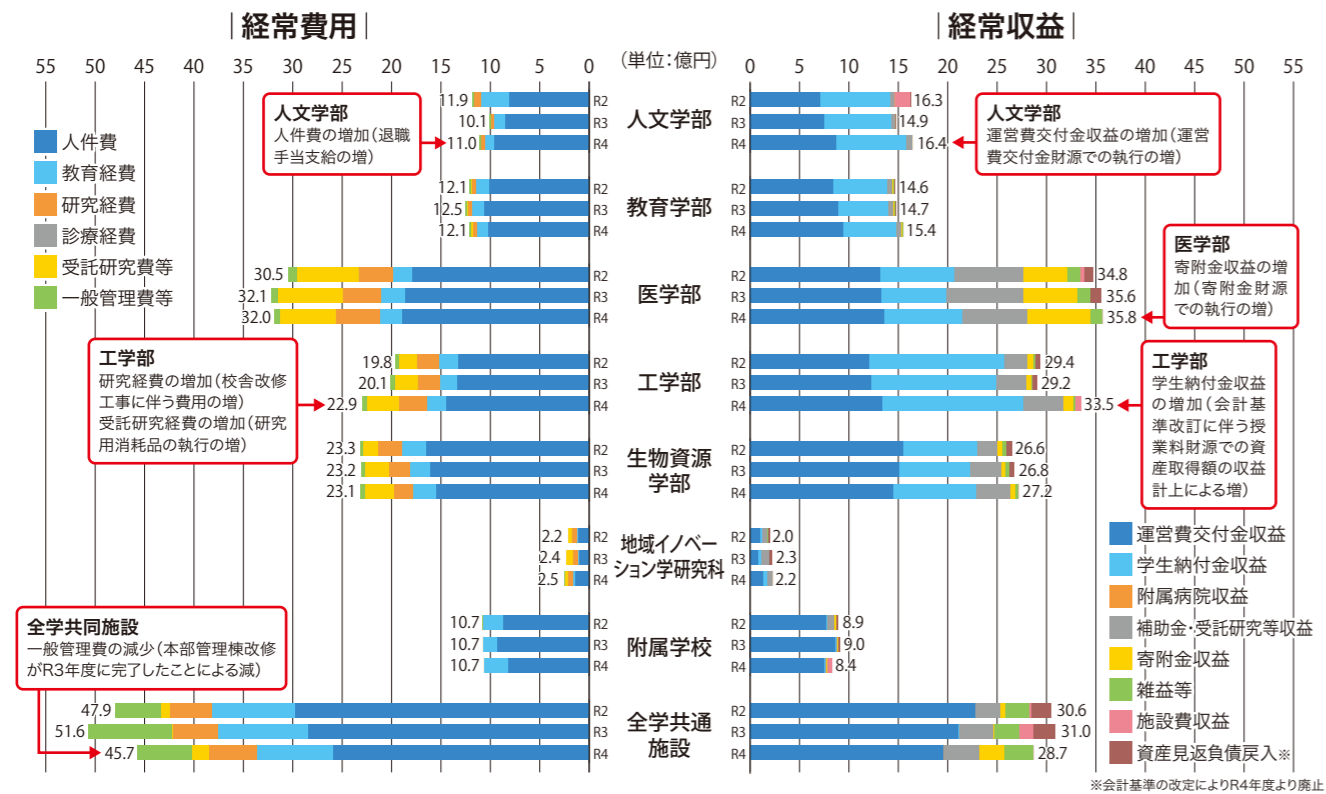
右のグラフは、間接的なコストの大学事業費(直接経費)に対する割合とその内訳を示しています。

| R4事業年度の大学事業費と間接的なコスト |



部局別セグメント情報の開示

経常費用と経常収益について、前々事業年度、前事業年度及び当事業年度の金額と構成比率を部局別に開示します。これにより、部局毎の規模や財政構成の違い、経年の変化等を表します。



令和4年度の財務ハイライト

地域共創プラザの新設



令和4年度から令和5年度にかけて第一食堂のリニューアル工事を行い、新たに『地域共創プラザ』を新設いたしました。

『地域共創プラザ』は地域や企業を巻き込む交流の場であり、またコロナ禍で大変な思いをした学生への交流の場となるよう願いが込められオープンしています。

この建物は、本学が経営努力認定を受けた目的積立金(3.4億円)と社会の皆様からのご寄附いただいた振興基金(2.3億円)を合わせて充てることにより実現することができました。

本学では『地域共創プラザ』において、食堂スペースに設置した大型のデジタルサイネージで、地元企業のプロモーションを行っていきます。加えて、今後地域共創に向けた多様な企画を展開するとともに、本学をパートナーとされる企業や近隣自治会をはじめ、地域の皆様に広く活用いただけるよう取り組んでいきます。

資産運用への取組

I 資金の運用基準の文部科学大臣による認定

国立大学法人法第35条において準用する独立行政法人通則法第47条に加え、国立大学法人法第34条の3における資金の運用に係る文部科学大臣の認定基準第2を受けたことに伴い、外国政府等が発行する債券等の元本保証の無い金融商品も購入可能となり、より幅広く資金の運用ができるようになりました。

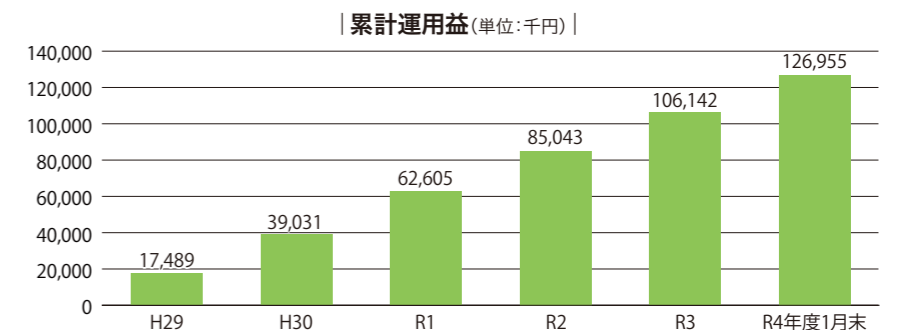
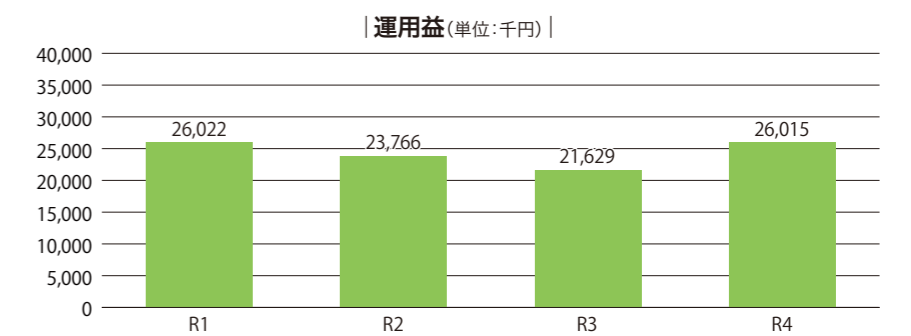
また、本学の財政基盤の強化を図るとともに将来の教育研究の発展に資するため、新たに「国立大学法人三重大学資金運用管理規程」を設け、金融機関等の外部の委員を加えた資金運用管理委員会により、資金の安全かつ効果的な運用を行っています。

II 運用益の推移

令和3年度までは社会的な低金利の影響により、運用益が減少傾向にありましたが、文部科学大臣より認定を受け、資金運用の選択肢を広げたことで、令和3年度より約440万円多く運用益を出すことができました。

また、累計運用益については平成29年度から約1.1億円積み上げることができています。

今後も積極的に適切な資金運用を行い、大学の財務基盤の強化を図っていきます。



財務情報

参考:国立大学法人の会計処理の特徴

国立大学法人の会計

国立大学法人会計は、企業会計原則を基本としていますが、教育・研究といった公共性や非独立採算を踏まえた国立大学法人会計基準を優先適用し、特有の会計処理を取り入れたものとなっています。

I 国立大学法人会計の特徴

民間企業における会計の目的は、企業活動によって生じた利益を計算し、企業の利害関係者に対して『財政状態』と『経営成績』に関する情報を開示することになります。

それに対し、国立大学法人は、公的な性格を有し、主たる目的が教育・研究であり、学生納付金や附属病院収入等の業務実施のための財源が多様であるといった特性があるため、会計の目的は、『財政状態』と『運営状況』を開示することになります。

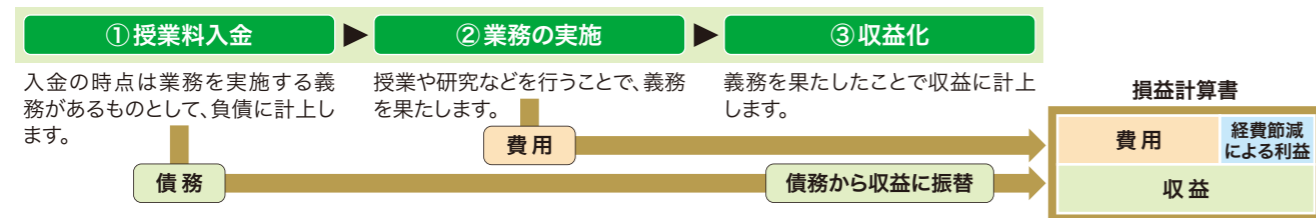
II 収益計上の特徴

収益化の会計処理

国立大学は運営費交付金や学生からの授業料などを財源として業務を行っています。運営費交付金や授業料は、受け入れた時は収益として計上せず、将来の業務を行う義務があるものとして債務として認識します。これらの債務は、業務を実施することで、義務を果たしたものとして、以下のように収益に振り替えます。

- 運営費交付金や授業料等(補助金を除く)は執行分を収益に振り替え(以下イメージ図参照)
- 補助金は費用分(資産の取得分を除く)を収益に振り替え※

※補助金は返還等の可能性もあることから、資産にかかる処理が運営費交付金や授業料等とは異なります。



III 減価償却引当特定資産

減価償却引当特定資産とは、国立大学法人の施設整備の更新を目的として、計画的に資金を留保する制度です。(令和4年度より新設)目的積立金とは異なり、文部科学大臣の認定を受けることなく使用することができます。計上するか否か、いくら計上するのか※等は各国立大学の判断で決定することができます。 ※ただし、当該年度の減価償却費を上限とする。

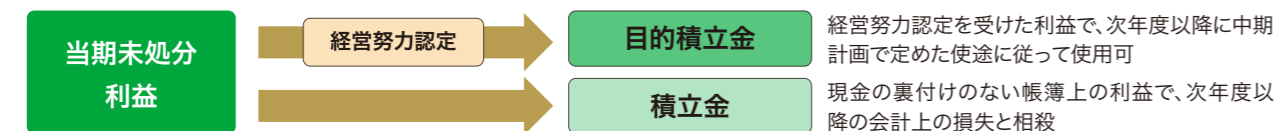
損益計算書		現金の動き		貸借対照表(抜粋)	
収益	3,000	収入	3,000	現金預金	400
人件費	△1,000	人件費	△1,000	減価償却引当特定資産	400
経費	△500	経費	△500		
減価償却費	△500	借入金返済	△700		
利益	1,000	現金の増加	800		

現金の増加800のうち、400を減価償却特定資産に計上すると

この額から国立大学の判断で減価償却引当特定資産を計上

IV 国立大学法人の利益処分

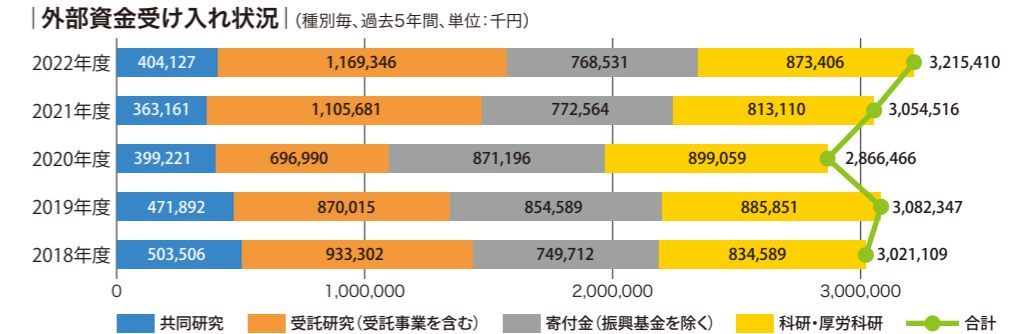
国立大学法人が獲得した利益のうち、国立大学法人の経営努力により生じたと文部科学大臣から認定された額については、中期計画で定める使途に充てるために目的積立金として積み立てます。



共同研究の取組

多彩な最先端の研究を充実させ、社会に成果を還元

三重大では、多様な独創的応用研究の充実、萌芽的・国際的研究課題に鋭意に取り組む、研究成果を積極的に社会に還元することを目指しています。



共同研究事例

AIを活用した路面標示劣化検知システムの開発 試作システムの開発と実運用に向けた実証実験

三重大では現在、三重県県土整備部・三重県警察本部と連携し、路面標示劣化検知システムを開発しています。令和3年度にプロトタイプシステムの開発が完了し、令和4年度には実際の現場での運用を目指した実証実験を予定しています。開発したシステムは、ドライブレコーダの画像から路面標示の剥離度をAIを用いて推定します。推定結果は、位置情報と共に登録され、維持管理に活用されます。これにより、作業の負担軽減や主観に左右されない評価などが期待できます。



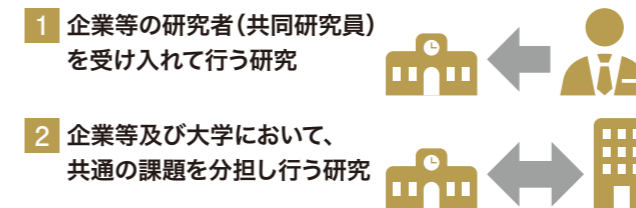
池浦 良淳 教授(工学研究科) / 川中 普晴 准教授(工学研究科)

共同研究・受託研究の受入手続き

三重大では、これまでに産学連携活動を通じて、産業界や地域社会に知識の移転、研究成果の社会還元を行ってきました。今後も様々な課題を地域と共に探究し、その成果を還元して地域の発展を導き、地域共創大学として発展してまいります。引き続き、皆様のご支援とご協力をお願いいたします。

共同研究

企業等の研究者と大学の教員が、対等の立場で共通の研究課題に取り組み、優れた研究成果を生み出そうとするものです。次の2つのタイプがあります。



※いずれのタイプにおいても研究経費を大学に取めていただく必要があります。

研究期間

研究期間は概ね5年を上限としますが、それ以上にわたる契約も可能です。

税制上の優遇措置

特別試験研究費税額控除制度によって、企業等が支出した研究費の一定額が法人税の対象から控除されます。

知的財産権の取扱い

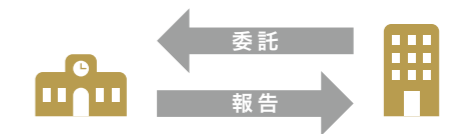
共同研究契約に基づき、共同研究に対する寄与度に応じて決定します。

納入いただく経費

- 直接経費(研究費)
- 研究員料※1:年額44万円(6ヵ月以内の場合は22万円)
- 間接経費※2:直接経費の30%

受託研究

大学が企業等から委託を受けて研究を行い、研究成果を報告します。



知的財産権の取扱い

基本的に大学に帰属しますが、委託者のご要望により大学の知的財産権の一部を委託者に譲与することができます。

税制上の優遇措置

特別試験研究費税額控除制度によって、企業等が支出した研究費の一定額が法人税対象から控除されます。

納入いただく経費

- 直接経費(研究費)
- 間接経費:直接経費の30%

※1 研究員(企業等に在職のまま大学に派遣される人)を本学に受け入れることにより必要となる経費
 ※2 直接経費以外に必要な、研究支援部門及び共同利用施設の維持・管理経費及び今後の産学官連携活動の発展に向けた戦略的経費

共同研究の詳細はこちら



受託研究の詳細はこちら



財務情報

ご寄附の手続き

振興基金



『地域共創プラザ』完成!

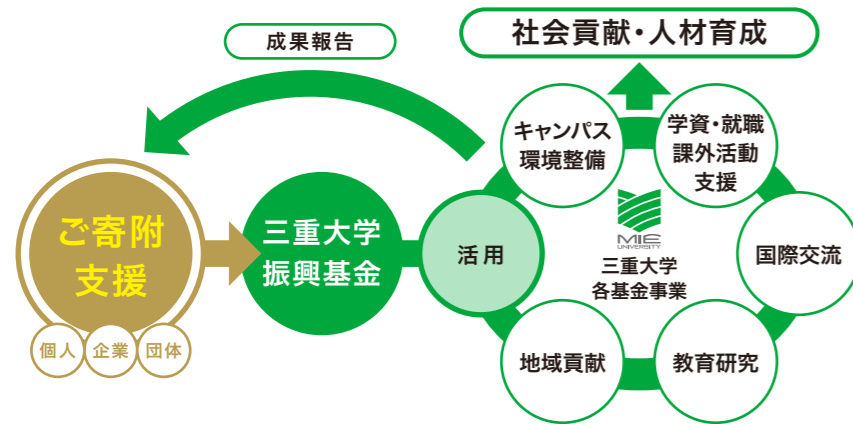
地域共創に向けた新たな施設である『地域共創プラザ』が2023年3月末に完成し、5月8日にオープンしました。

建物は鉄筋2階建、総工費約5.7億円のうち、皆様からご寄附いただいた振興基金事業から2.3億円を建設費の一部に充てさせていただきました。

引き続き振興基金事業へのご理解・ご協力をお願いいたします。

三重大学が、地域社会からの期待に十分応えることのできる大学に成長・発展を遂げるためには、学部学生、大学院生、留学生などの修学環境の整備とキャリア支援、国際教育研究交流事業の推進、産官学民連携活動の強化等、多くの重点課題に取り組むことが大切です。

しかし、法人化以降、大学運営の効率化とともに基盤的予算の削減が既定路線となり、新たな課題に対する戦略的、裁量的投資の余地は極めて限られてきているのが現状です。このような状況を鑑み、大学全体の組織として「三重大学振興基金」を設立しました。広く学内外の皆様からのご厚意、感謝申し上げます。なお、これからも卒業生をはじめ地域社会の皆様のご理解とご協力を仰ぎながら、引き続き「基金」を運営・発展させることにより、自主的・戦略的投資を進めていきたいと思っております。



ご寄附の方法

1 インターネット申込 (振込手数料は本学が負担します。)

ホームページをご覧ください

三重大学振興基金 検索



取扱い種類

- クレジットカード決済
- コンビニ決済
- Pay-easy (ペイジー) 決済

2 郵便振替・銀行振込

三重大学振興基金事務局 (TEL.059-231-9005)

へご連絡ください。

本学専用振込用紙(ゆうちょ銀行)を郵送させていただきます。(振込手数料は本学が負担します。)

振興基金の詳細はこちら



ご寄附による税制上のメリット

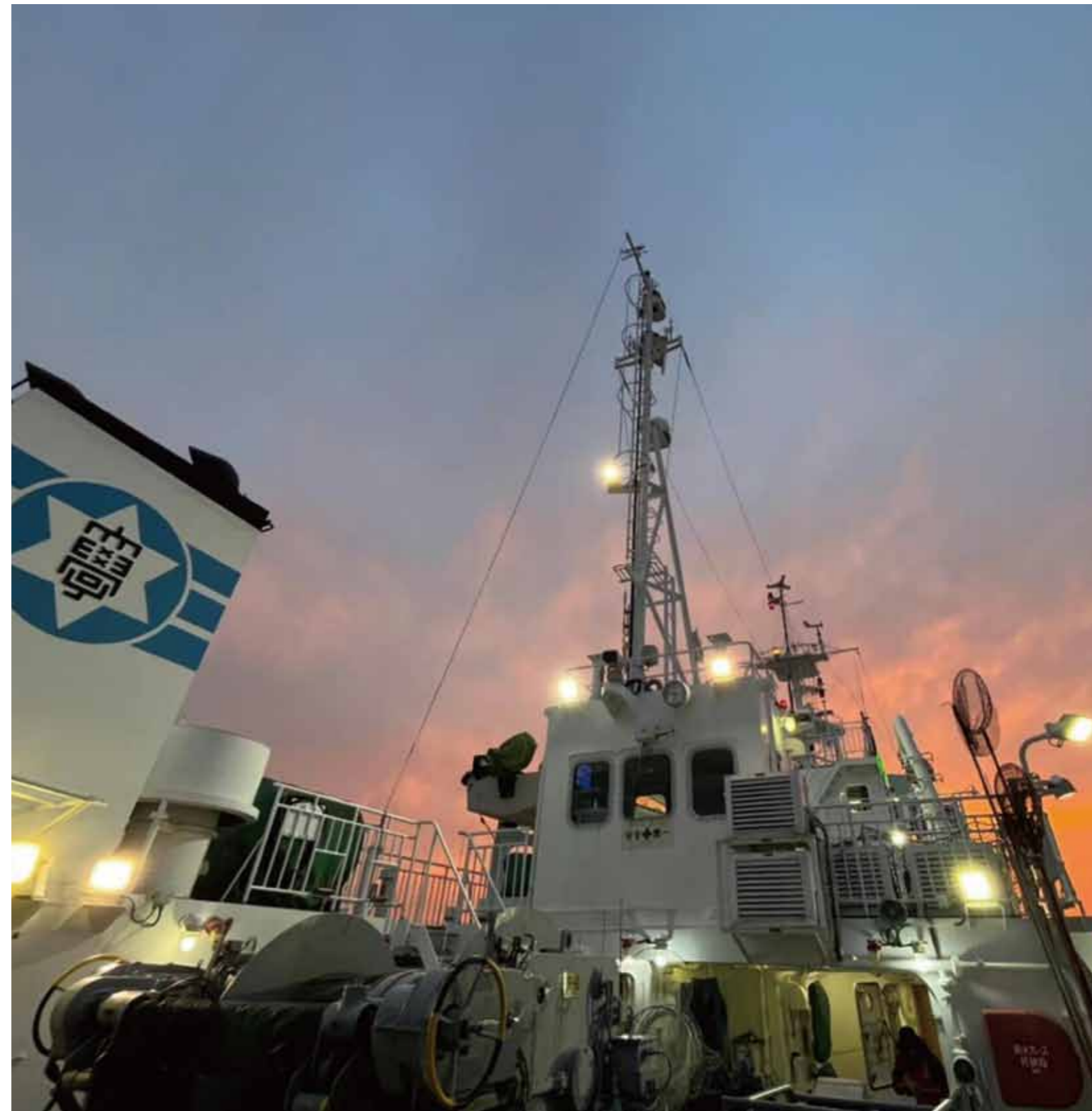
三重大学振興基金への寄附は、税法上の寄附金税額控除を受けられます。寄附金控除を受けるには確定申告が必要です。本学発行の寄附金領収書等をお使い下さい。

- 法人の皆様 → 寄附金の全額を損金算入することができます。
- 個人の皆様 → 所得控除、税額控除、住民税控除などが受けられます。詳しくは振興基金事務局までお問い合わせください。

問い合わせ先 (振興基金)



お問い合わせ 三重大学振興基金事務局【研究・地域連携部社会連携チーム内】
〒514-8507 津市栗真町屋町1577番地 TEL. 059-231-9005 FAX. 059-231-9047 E-mail: kikin@ab.mie-u.ac.jp



【附属練習船勢水丸】

- 総トン数: 318トン
- 国際トン数: 491トン
- 長さ(全長): 50.90m
- 幅(型): 8.60m
- 深さ(型): 3.75m
- 主推進電動機: 出力1,000kW
- 航海速度: 10.0ノット
- 航続距離: 3500海里
- 定員: 44名
- 学部学生の実習並びに教員、学生の調査研究に利用している。

第5回おしゃれなスポット・学生生活での思い出の写真 応募作品 最優秀賞
写真名: 附属練習船勢水丸

撮影者からのコメント: 「実習で練習船勢水丸に乗った際に撮った写真です。」

【掲載内容について】

2022年度(2022年4月1日~2023年3月31日)の内容を掲載しておりますが、必要に応じて当該期間の前後についても、触れている箇所があります。お問い合わせ、ご感想などがございましたら、下記のメールアドレスまで、お知らせください。
三重大学企画総務部総務チーム広報室: koho@ab.mie-u.ac.jp